



MP-A40 シリーズ
プリンタードライバー
取扱説明書

U00135983207

セイコーインスツル株式会社

U00135983200	2016 年	8 月
U00135983201	2018 年	1 月
U00135983202	2019 年	8 月
U00135983203	2020 年	5 月
U00135983204	2020 年	9 月
U00135983205	2021 年	5 月
U00135983206	2021 年	10 月
U00135983207	2022 年	10 月

©セイコーインスツル株式会社 2016-2022

無断転載を禁じます。

Microsoft®及び Windows®は米国 Microsoft Corporation の米国、日本及びその他の国における登録商標です。

Bluetooth®は Bluetooth SIG, Inc.の登録商標です。

本書の内容は、断りなく変更することがあります。

本書及び本書に記載された製品の利用によって発生した
損害及びその回復に要する費用に対し、当社は一切の責任を負いかねます。

この取扱説明書を第三者に無断で頒布することを禁じます。

はじめに

本書はセイコーインスツル株式会社のMP-A40シリーズ向けプリンタードライバー（以降：プリンタードライバー）について説明します。

本書は原則、下記条件に基づき記載します。

- Windows 8.1の画面及び表示構成
- マウス及びキーボードによる操作方法

記号について

本書で使用する記号について下記に記載します。

注意

- ◆ 注意事項や制限事項を記載しています。

参考

- 補足説明や関連事項を記載しています。

対象プリンターについて

プリンタードライバーでサポートするプリンター（本体）を下記に記載します。

- MP-A40シリーズ

オペレーティングシステムの略称について

本書で使用するオペレーティングシステムの略称について下記に記載します。
個別で説明する必要がある場合は、略称の後ろに記載した括弧書きの内容で説明します。

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|
| • Microsoft® Windows®の全般 | ⇒ Windows |
| • Microsoft® Windows® 11 | ⇒ Windows 11 |
| • Microsoft® Windows® 10 | ⇒ Windows 10 |
| • Microsoft® Windows Server® 2019 | ⇒ Windows 10(Windows Server 2019) |
| • Microsoft® Windows Server® 2016 | ⇒ Windows 10(Windows Server 2016) |
| • Microsoft® Windows® 8.1 | ⇒ Windows 8.1 |
| • Microsoft® Windows Server® 2012 | ⇒ Windows Server 2012 |

用語について

本書で使用する用語について下記に記載します。

用語	内容
ツール	プリンタードライバーから起動できる各種ツール群
プリンター名	プリンターフォルダーに表示され、ユーザーが変更できるフレンドリ名
ドライバー名	プリンタードライバーを識別する固有のモデル名
SDK	プリンタードライバーに付属する、直接プリンターと通信して制御することを目的とするアプリケーション開発向けダイナミックリンクライブラリ(DLL)
プリンターコマンド	「MP-A40シリーズ サーマルプリンタ 技術説明書」に記載されているプリンターを制御するための命令
テスト印刷コマンド	プリンタードライバーにおいてテスト印刷を行う命令 ツールパネルの[テスト印刷]の[コマンドリスト(L)]に入力するコマンド群
メモリスイッチ	「MP-A40シリーズ サーマルプリンタ 取扱説明書」に記載されている[機能設定]の機能
NVイメージ	プリンターのNVメモリ(不揮発性メモリ)に登録されたイメージデータ
IPD*1 フォント	プリンタードライバー独自の下記のフォントの総称 <ul style="list-style-type: none"> ・ デバイスフォント ・ バーコードフォント ・ 2次元バーコードフォント ・ コントロールフォント ・ コントロールAフォント
特殊フォント	IPDフォントで、プリンターコマンドの出力のために使用する 下記フォントの総称 <ul style="list-style-type: none"> ・ バーコードフォント ・ 2次元バーコードフォント ・ コントロールフォント ・ コントロールAフォント
メンテナンスカウンター	プリンターコマンドで取得できるメンテナンスカウンターの値
プリンターステータス	プリンターコマンド「自動ステータス送信の有効・無効」で取得できる 応答 応答内容については『5.2.3 ステータスの一覧』を参照してください。
ドット	印字を構成する単位 8ドットで1mmの印字

*1: Integrated Printer Driver (以降IPD)

表記について

本書では、オペレーティングシステムに依存する下記の内容を、共通名称として定義します。

プリンターフォルダー

本書の説明で使用する「プリンターフォルダー」とは、下記の操作により表示されるフォルダーを指します。

[コントロールパネル]⇒[ハードウェアとサウンド]⇒[デバイスとプリンター]の順に選択し、表示される[デバイスとプリンター]フォルダー

プリントサーバーのプロパティ

本書の説明で使用する「プリント サーバーのプロパティ」とは、下記の操作により表示されるプロパティを指します。

[プリンターフォルダー]内の任意のプリンターアイコンをクリック⇒[プリンターフォルダー]上部のツールバーに表示された[プリント サーバー プロパティ]を選択し、表示される[プリント サーバーのプロパティ]

ルートフォルダー

本書の説明で使用する「ルートフォルダー」とは、下記のフォルダーを指します。

＜Windowsがインストールされているドライブ＞:¥Users¥＜ユーザー名＞¥Documents¥
＜プリンター名(SII MP-A40など)＞¥

免責

本ソフトウェアの開発ではトラブルが発生しないよう十分留意していますが、万一、本製品によりお客様に直接的、間接的または波及効果による損害を及ぼした場合でも、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

1章	概要	1-1
1.1	はじめに	1-1
1.2	動作環境	1-1
1.2.1	オペレーティングシステム	1-1
1.2.2	インターフェイス	1-2
1.3	メモリスイッチの利用条件	1-3
1.4	制限事項	1-4
2章	インストール	2-1
2.1	概要	2-1
2.2	新規インストール方法	2-2
2.2.1	インストール共通手順	2-2
2.2.2	USB接続でのインストール	2-4
2.2.3	Bluetooth接続でのインストール	2-6
2.2.4	TCP/IP接続でのインストール	2-7
2.2.5	共有プリンターのインストール	2-8
3章	印刷設定	3-1
3.1	概要	3-1
3.2	レイアウト	3-2
3.2.1	レイアウトの設定	3-2
3.3	用紙・品質	3-3
3.3.1	用紙/品質の設定	3-3
3.4	書式設定	3-4
3.4.1	書式の設定	3-4
3.4.2	[設定ビュー]のマーク一覧	3-5
3.4.3	[設定リスト]のカテゴリ	3-6
3.4.4	プリセットの利用	3-6
3.4.5	基本設定	3-8
3.4.6	用紙送り設定	3-10
3.4.7	オプションの設定	3-11
3.4.8	バイナリエディターの使用方法	3-12
3.5	フォント	3-13
3.5.1	フォントの設定	3-13
3.5.2	[設定ビュー]のマーク一覧	3-14
3.5.3	[設定リスト]のカテゴリ	3-14
3.5.4	デバイスフォントの設定	3-15
3.5.5	バーコードフォントの設定	3-17
3.5.6	2次元バーコードフォントの設定	3-21
3.5.7	コントロールAフォントの設定	3-24
3.6	ウォーターマーク	3-25
3.6.1	ウォーターマーク	3-25
3.6.2	[設定ビュー]のマーク一覧	3-26
3.6.3	[設定リスト]のカテゴリ	3-26
3.6.4	ウォーターマークの設定	3-27

3.6.5	ウォーターマークの利用.....	3-28
3.7	詳細設定	3-29
3.7.1	詳細オプションの設定	3-29

4章 プロパティ 4-1

4.1	概要	4-1
4.2	全般	4-2
4.2.1	全般の設定	4-2
4.3	共有	4-3
4.3.1	共有の設定	4-3
4.4	ポート	4-4
4.4.1	ポートの設定	4-4
4.5	ツール	4-5

5章 ツール 5-1

5.1	概要	5-1
5.1.1	[ツール]の表示	5-2
5.2	プリンター情報	5-3
5.2.1	プリンター情報の表示	5-3
5.2.2	プリンターステータスの表示	5-4
5.2.3	ステータスの一覧	5-5
5.2.4	ステータス履歴の保存	5-6
5.2.5	ハードウェアの表示	5-6
5.2.6	メンテナンスカウンターの表示	5-7
5.3	メモリスイッチ	5-8
5.3.1	メモリスイッチの設定	5-8
5.3.2	メモリスイッチ設定のプリンター登録	5-9
5.3.3	メモリスイッチ設定内容の保存	5-10
5.4	ログ	5-11
5.4.1	ログ出力の設定	5-11
5.4.2	ログ出力の設定の変更	5-13
5.4.3	ログファイルの内容	5-13
5.5	テスト印刷	5-14
5.5.1	テスト印刷の設定	5-14
5.5.2	テスト印刷の実行	5-17
5.5.3	テスト印刷ファイルの保存	5-18
5.6	NVイメージ	5-19
5.6.1	NVイメージの設定	5-19
5.6.2	イメージ登録の設定	5-20
5.6.3	イメージ編集の設定	5-22
5.6.4	NVイメージの登録	5-23
5.6.5	イメージデータの編集	5-24
5.6.6	イメージデータの設定と画像の保存	5-24
5.7	コードページ	5-25
5.7.1	コードページの設定	5-25
5.7.2	コードページ登録の設定	5-27
5.7.3	[キャラクタービュー]によるフォントデータの編集	5-29

5.7.4	コードページの登録.....	5-30
5.7.5	フォントデータの編集.....	5-31
5.7.6	フォントデータの設定と画像の保存	5-31
5.8	その他.....	5-32
5.8.1	その他の設定	5-32
5.8.2	設定のインポート.....	5-33
5.8.3	設定のエクスポート.....	5-33

6章	用紙設定	6-1
-----------	-------------	------------

6.1	概要.....	6-1
6.2	用紙サイズ.....	6-3
6.3	余白.....	6-3
6.4	カスタム用紙の登録方法	6-5

7章	フォント	7-1
-----------	-------------	------------

7.1	概要.....	7-1
7.2	デバイスフォント.....	7-3
7.2.1	デバイスフォントの種類の選択	7-3
7.2.2	デバイスフォントの印刷.....	7-4
7.3	バーコードフォント.....	7-5
7.3.1	バーコードフォントの種類の選択	7-5
7.3.2	バーコードフォントの印刷.....	7-6
7.4	2次元バーコードフォント.....	7-8
7.4.1	2次元バーコードフォントの種類の選択	7-8
7.4.2	2次元バーコードフォントの印刷.....	7-8
7.5	コントロールフォント.....	7-9
7.5.1	コントロールフォントの種類の選択.....	7-9
7.5.2	コントロールフォントの使用	7-9
7.6	コントロールAフォント.....	7-10
7.6.1	コントロールAフォントの種類の選択	7-10
7.6.2	コントロールAフォントの使用	7-10

1章 概要

1.1 はじめに

本章ではプリンタードライバの概要について説明します。

1.2 動作環境

プリンタードライバの動作環境について説明します。

1.2.1 オペレーティングシステム

プリンタードライバは下記のオペレーティングシステムをサポートします。
カッコ内はサポートするアーキテクチャを示します。

- Windows 11 (64ビット)
- Windows 10 (32ビット及び64ビット)
- Windows Server 2019 (64ビット)
- Windows Server 2016 (64ビット)
- Windows 8.1 (32ビット及び64ビット)
- Windows Server 2012 (64ビット)

注意

- ◆ Modern UIはサポートしていません。

1.2.2 インターフェイス

プリンタードライバーは下記のインターフェイスをサポートします。

- USB (規格:フルスピード)
- TCP/IP (プロトコル:Raw)
- Bluetooth (プロファイル:SPP)

注意

◆ Bluetooth接続の場合:

- 動作条件は下記の通りです。
 - ・対象のプリンターが他のコンピューターとBluetooth接続されていないこと
 - ・マイクロソフト社のシステム標準ドライバーを利用していること
 - ・Bluetooth接続でのインストール時に生成される仮想シリアルポートを経由して接続できること
- Bluetooth接続で、プリンタードライバーまたは通信ライブラリを使用していない場合は、プリンター情報構造体 (PRINTER_INFO) のステータス情報は反映されません。
- Windows Server 2019、2016及び2012はBluetooth通信をサポートしていません。

◆ TCP/IP接続の場合:

- Rawプロトコルのみサポート (LPRの指定は無視) します。(ただし、双方向サポートが無効の場合を除く)
- 9100番、及び26100番のソケットポートを使用します。ファイアーウォールを導入する場合、これらのポートの接続を許可する設定で利用してください。

参考

- 動作確認済みのBluetoothデバイスについては、弊社までお問い合わせください。

1.3 メモリスイッチの利用条件

メモリスイッチを下記に設定してください。

メモリスイッチはツールにより変更できます。詳細は『5.3 メモリスイッチ』を参照してください。

MS	項目名	設定条件
MS1-2	マークモード選択 (Mark Mode)	0: 有効 (Enable) / 1: 無効 (Disable) ※1
MS1-3~5	コマンド体系選択 (Command System)	000: ESC/POS
MS2-2	リアルタイムコマンド選択 (Realtime Command)	0: 有効 (Enable)
MS9-1	自動ステータス応答機能選択 (Auto Status Back)	0: 有効 (Enable) / 1: 無効 (Disable) ※2
MS9-2	イニシャライズ完了応答選択 (Init. Response)	0: 有効 (Enable) ※2 ※3
MS13-1	漢字コード体系選択 (Kanji Code)	0: SJISコード (Shift-JIS Code) ※4

※1: マーク紙の頭出しを行う場合は、本設定を「有効」にしてください。

マーク紙の頭出しを行わない場合は、本設定を「無効」にしてください。

※2: 通常は、本設定を「有効」にしてください。ただし『4.4 ポート』の「双方向サポートを有効にする」のチェックボックスをオフに選択した場合は、本設定を「無効」にしてください。

※3: SDKで[イニシャライズ完了応答]を取得する場合は、本設定を「有効」にしてください。

※4: SDKでHTMLデータを扱う場合は、本設定を「SJISコード」にしてください。

注意

- ◆ 上記以外の設定にした場合は、プリンタードライバーが正常に動作しなくなる恐れがあります。

1.4 制限事項

プリンタードライバには、下記の制限事項があります。

- Windows標準機能のスリープモード、休止モードでの印字化け等の異常動作については、保証対象外です。
- 専用のプリントプロセッサ (SII Print Processor) が無効になる設定 (FILE出力含む) の場合は、すべての縮小機能が無効になります。
- プリンターコマンド「周辺機器の選択」において、プリンターを無効に選択した場合は、プリンタードライバの機能はすべて利用できません。
- TCP/IP接続利用時に、複数のコンピューターで同一のIPアドレスを指定してインストールした場合は、ツール及びSDKを複数のコンピューターで同時利用することはできません。
また、印刷をキャンセルした場合は、正常に印刷されない場合があります。
- 印刷中断時にプリンターと未接続状態、またはプリンターがデータを受け付けられない状態になっていた場合は、プリンターのリセット処理が正常に実施されず、印字化け等が発生する可能性があります。
- プリンター情報構造体 (PRINTER_INFO) のステータス情報は反映されません。

2章 インストール

2.1 概要

本章ではプリンタードライバーのインストールについて説明します。

インストール方法には下記の種類があります。

- [プリンターフォルダー]の[プリンターの追加]からのインストール
- 専用インストーラーからのインストール

本章では専用インストーラーからのインストール手順のみ説明します。

注意

- ◆ インストール作業にはコンピューターの管理者権限が必要です。
- ◆ インストール中に[Windowsロゴテスト]についての警告が表示される場合がありますが、そのままインストールを続行してください。

参考

- プリンタードライバーが不要となった場合は、コントロールパネルの[プログラムと機能]から[SII MP-A40 Series Printer]を選択し、アンインストールを行ってください。
- 本プリンタードライバーを利用する複数のプリンターをインストールする場合、2回目以降のインストールはインストール済みのプログラム[SII MP-A40プリンターの追加ウィザード]から行ってください。
[SII MP-A40プリンターの追加ウィザード]は以下から起動できます。
 - Windows 11及びWindows 10の場合
[スタート画面]⇒[すべてのアプリ]⇒[SII MP-A40 シリーズプリンター]
 - Windows 8.1及びWindows Server 2012の場合
[スタート画面]⇒画面の左下隅近くにある矢印(↓)をクリックして表示されるアプリビュー⇒[SII MP-A40 シリーズプリンター]

2.2 新規インストール方法

下記に新規インストール方法について説明します。

注意

- ◆ 同一の通信ポートに複数のプリンターをインストールしないでください。

2.2.1 インストール共通手順

下記に各接続で共通するインストール開始手順について説明します。

1. [インストーラー起動]画面が表示されますので[次へ(N) >]ボタンをクリックします。

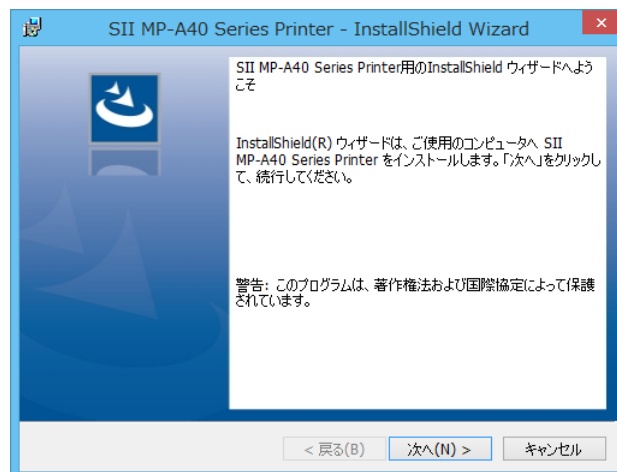


図 2-1 [インストーラー起動]画面

2. [ソフトウェア使用許諾契約書]が表示されますので、内容を確認して「使用許諾契約の条項に同意します(A)」を選択し、[次へ(N) >]ボタンをクリックします。

3. [セットアップタイプ選択]画面が表示されますので、「完全(C)」ボタンを選択し、[次へ(N) >] ボタンをクリックします。
プリンタードライバー以外の機能をインストールしない場合は「カスタム(S)」ボタンを選択し、表示に沿ってインストールするプログラムの機能を選択してください。

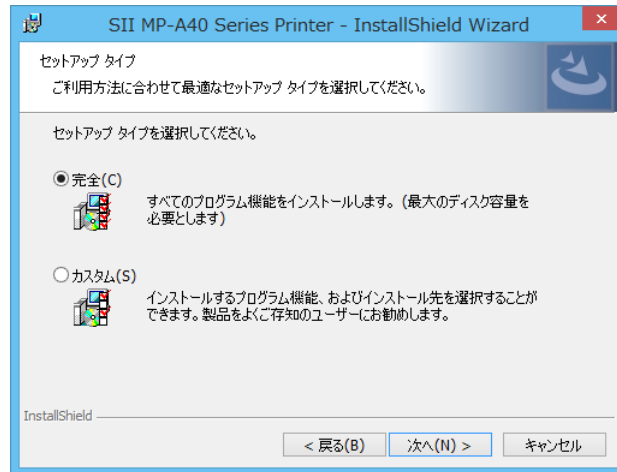


図 2-2 [セットアップタイプ選択]画面

4. [インストール確認]画面が表示されますので、[インストール(I)]ボタンをクリックします。

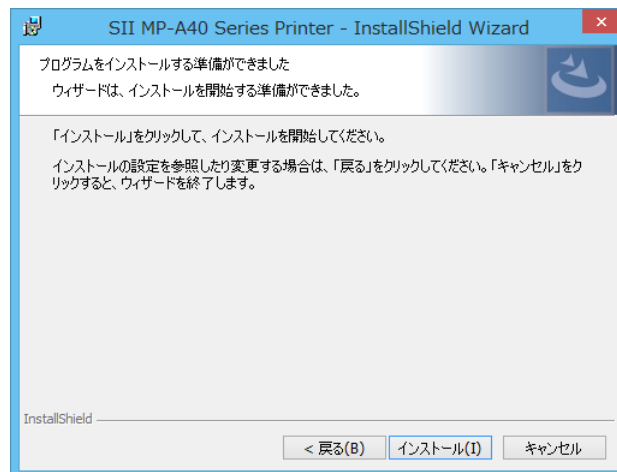


図 2-3 [インストール確認]画面

以降の手順についてはプリンターとの接続方式により異なります。接続方式がUSB接続の場合は『2.2.2 USB接続でのインストール』、Bluetooth接続の場合は、『2.2.3 Bluetooth接続でのインストール』、TCP/IP接続の場合は、『2.2.4 TCP/IP接続でのインストール』、共有プリンターを利用する場合は、『2.2.5 共有プリンターのインストール』へ進んでください。

2.2.2 USB接続でのインストール

下記にUSB接続でのインストール手順について説明します。

注意

◆ USB接続の場合、本書の指示があるまではプリンターの電源は切っておいてください。

5. [インストール形式の選択]画面が表示されますので、「プラグアンドプレイインストール」を選択し、[Install]ボタンをクリックします。

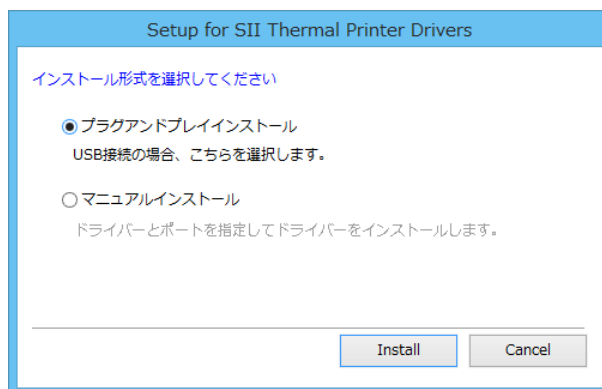


図 2-4 [インストール形式の選択]画面(USB接続)

6. [完了]画面が表示されたら、プリンターとコンピューターをUSBケーブルで接続し、プリンターの電源を入れてください。

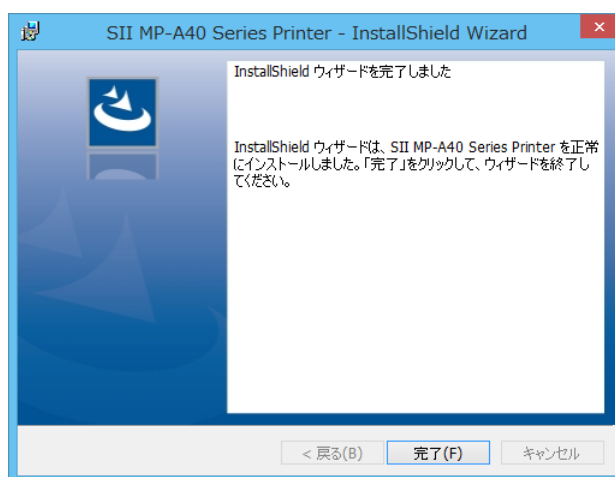


図 2-5 [完了]画面(USB接続)

7. プリンターがコンピューターに認識されると、プラグアンドプレイによりプリンタードライバーが自動的にインストールされます。

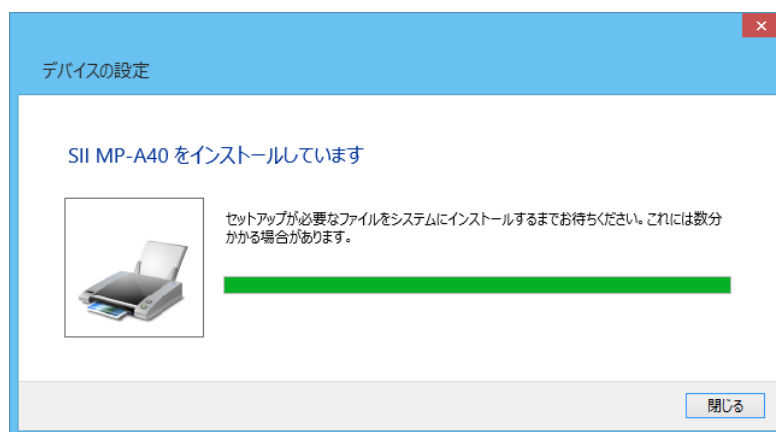


図 2-6 [デバイスの設定]画面

注意

- ◆ プリンタードライバーのインストール完了後に取り外したUSBケーブルを再度接続する場合は、インストールした時と同一のUSBポートに接続してください。USBポートの位置を変更すると、コンピューター側で別のプリンターを接続したと認識し、再びプリンタードライバーのインストール要求が発生します。

2.2.3 Bluetooth 接続でのインストール

注意

- ◆ Bluetooth接続を使用する場合は事前にペアリングを実施の上、生成された仮想シリアルポートへの割り当てを行ってください。
- ◆ Bluetooth接続を使用する場合は複数台のホストから同時に利用することは出来ません。

下記にBluetooth接続でのインストール手順について説明します。

5. [インストール形式の選択]画面が表示されますので、「マニュアルインストール」を選択し、インストールするドライバーと接続するポートを選択して[Install]ボタンをクリックし、インストールを開始します。

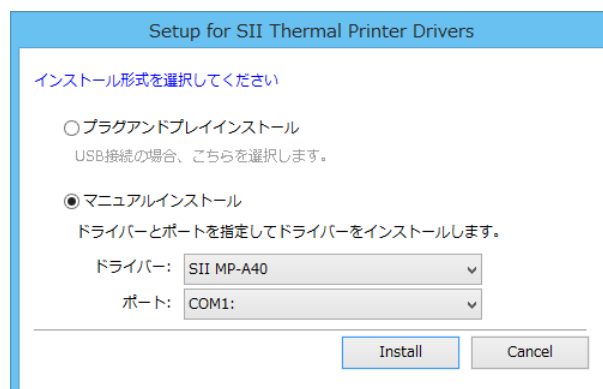


図 2-7 [インストール形式の選択]画面(Bluetooth接続)

6. インストールが終了すると、[完了]画面が表示されます。

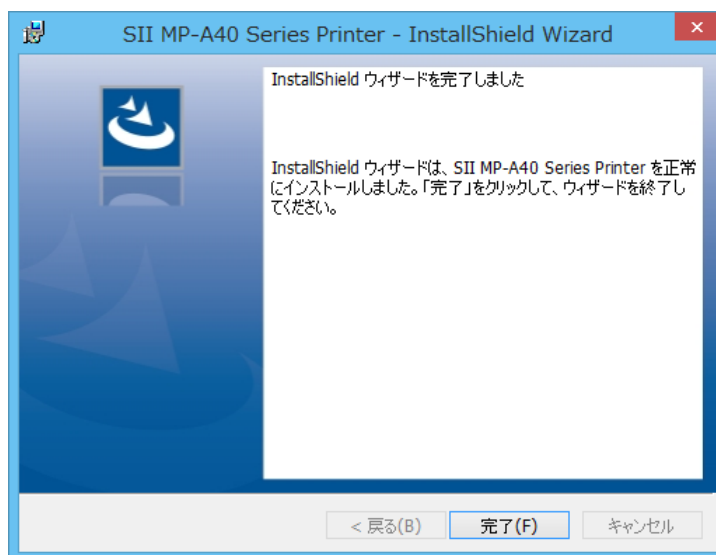


図 2-8 [完了]画面(Bluetooth接続)

2.2.4 TCP/IP接続でのインストール

下記にTCP/IP接続でのインストール手順について説明します。

5. [インストール形式の選択]画面が表示されますので、「マニュアルインストール」を選択し、「新しいポートの追加...」を選択します。



図 2-9 [インストール形式の選択]画面 (TCP/IP接続)

6. [新しいポートの作成]画面が表示されますので、「TCP/IPポート」を選択し、[IPアドレス]、[ポート名]、[ポート番号]を設定して[OK]ボタンをクリックすると、[インストール形式の選択]画面のポートリストにポートを追加します。

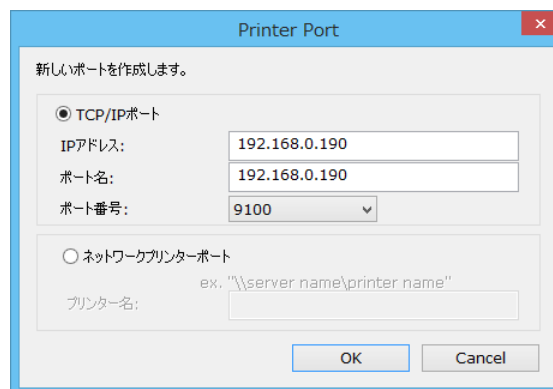


図 2-10 [新しいポートの作成]画面 (TCP/IP接続)

7. [インストール形式の選択]画面に戻りますので、インストールするドライバーと接続するポートを選択し、[Install]ボタンをクリックしてインストールを開始します。
8. インストールが終了すると、[完了]画面が表示されます。



図 2-11 [完了]画面(TCP/IP接続)

2.2.5 共有プリンターのインストール

下記に共有プリンターのインストール手順について説明します。

5. [インストール形式の選択]画面が表示されますので、「マニュアルインストール」を選択し、「新しいポートの追加...」を選択します。



図 2-12 [インストール形式の選択]画面(共有プリンター)

6. [新しいポートの作成]画面が表示されますので、「ネットワークプリンターポート」を選択し、[プリンター名]を設定して[OK]ボタンをクリックします。[インストール形式の選択]画面のポートリストにポートが追加されます。

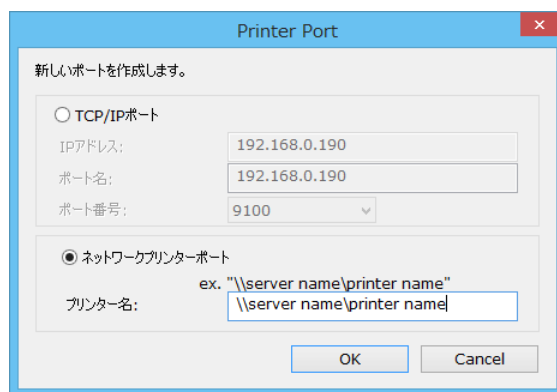


図 2-13 [新しいポートの作成]画面

7. [インストール形式の選択]画面に戻りますので、インストールするドライバーと接続するポートを選択し、[Install]ボタンをクリックしてインストールを開始します。

8. インストールが終了すると、[完了]画面が表示されます。

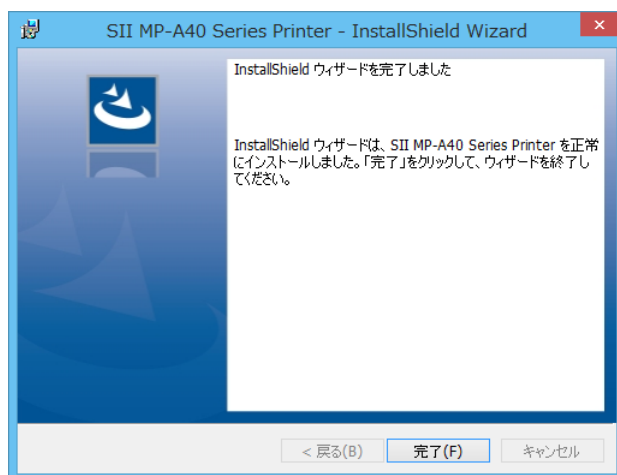


図 2-14 [完了]画面(共有プリンター)

3章 印刷設定

3.1 概要

本章では印刷設定について説明します。

印刷設定は[印刷設定]ダイアログに各種設定画面が表示され、それぞれ確認及び変更できます。

[印刷設定]ダイアログ上で表示される設定画面には下記の種類があります。

- ・ レイアウト : 印刷の向き、ページの順序及びページ形式を設定します。
- ・ 用紙/品質 : 印刷モードを設定します。
- ・ 書式設定 : 印刷書式を設定します。
- ・ フォント : IPDフォントを設定します。
- ・ ウォーターマーク : 印刷内容に重ねるイメージを設定します。

[印刷設定]ダイアログ上の設定画面は下記の手順で表示できます。

1. [プリンターフォルダー]内のプリンターアイコンを右クリックしてサブメニューを表示します。
2. 表示したサブメニューから[印刷設定(G)]を選択します。

各画面の詳細は次項以降で説明します。

注意

- ◆ Windows 8.1以降でWindowsストアアプリから印刷を行う場合は、[印刷設定]画面で設定可能な項目の一部しか表示されません。

3.2 レイアウト

印刷の向き、ページの順序及びページ形式を設定します。

3.2.1 レイアウトの設定

[レイアウト]タブを選択し、下記の画面を表示します。

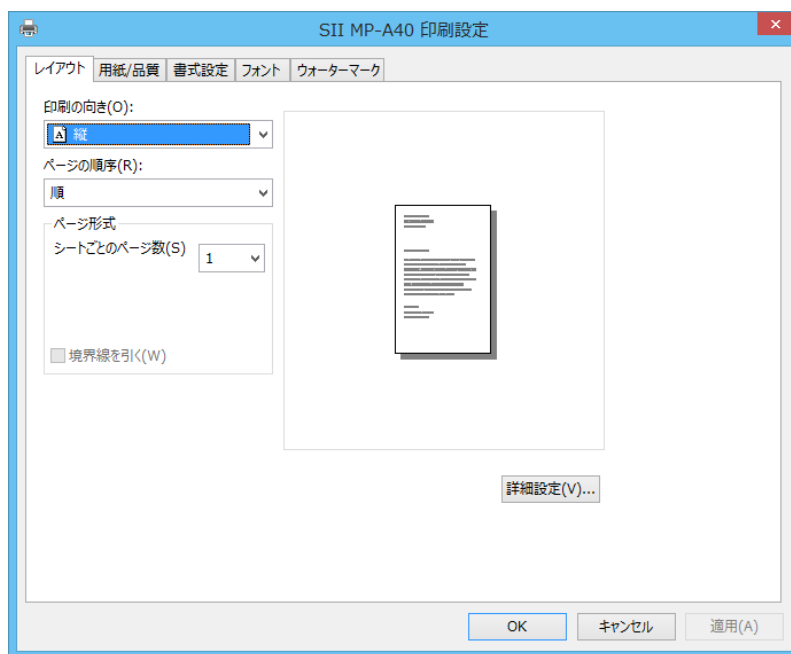


図 3-1 [レイアウト]画面

項目	説明 (“ ”: 初期値)
印刷の向き(O)	印刷の向きを選択します。※1 ・ 縦 ・ 横
ページの順序(R)	印刷するページの順序を選択します。 ・ 順 ・ 逆
ページ形式	シートごとのページ数を設定します。
シートごとのページ数(S)	1シートごとに印刷するページ数を選択します。 ・ 1 ・ 2 ・ 4 ・ 6 ・ 9 ・ 16
詳細設定(V)...	詳細設定ダイアログを表示します。 詳細は『3.7 詳細設定』を参照してください。

※1: 「横」に設定すると、IPDフォントは使用できません。

3.3 用紙・品質

印刷モードを設定します。

3.3.1 用紙/品質の設定

[用紙/品質]タブを選択し、下記の画面を表示します。

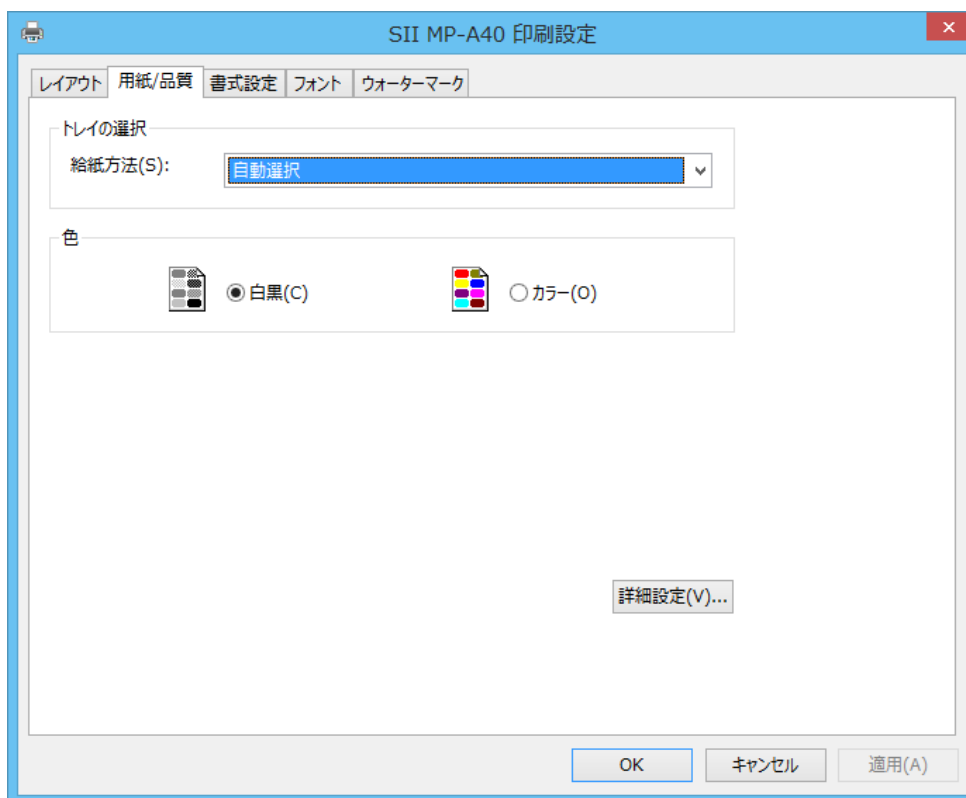


図 3-2 [用紙/品質]画面

項目	説明 (“ ”: 初期値)
トレイの選択	給紙方法を設定します。
給紙方法(S)	給紙方法は「自動選択」で固定です。 ・ <u>自動選択</u>
色	印刷モードを選択します。※1 ※2 ・ <u>白黒</u> (システム標準のハーフトーンを利用します) ・ カラー (プリンタードライバのハーフトーンを利用します)
詳細設定(V)...	詳細設定ダイアログを表示します。 詳細は『3.7 詳細設定』を参照してください。

※1: 「カラー」を選択すると『3.7 詳細設定』の[ハーフトーン]で、「自動選択」以外は選択できません。

※2: 本設定は『3.7 詳細設定』の[カラー印刷モード]と連動します。

3.4 書式設定

印刷書式を設定します。

3.4.1 書式の設定

[書式設定]タブを選択し、下記の画面を表示します。

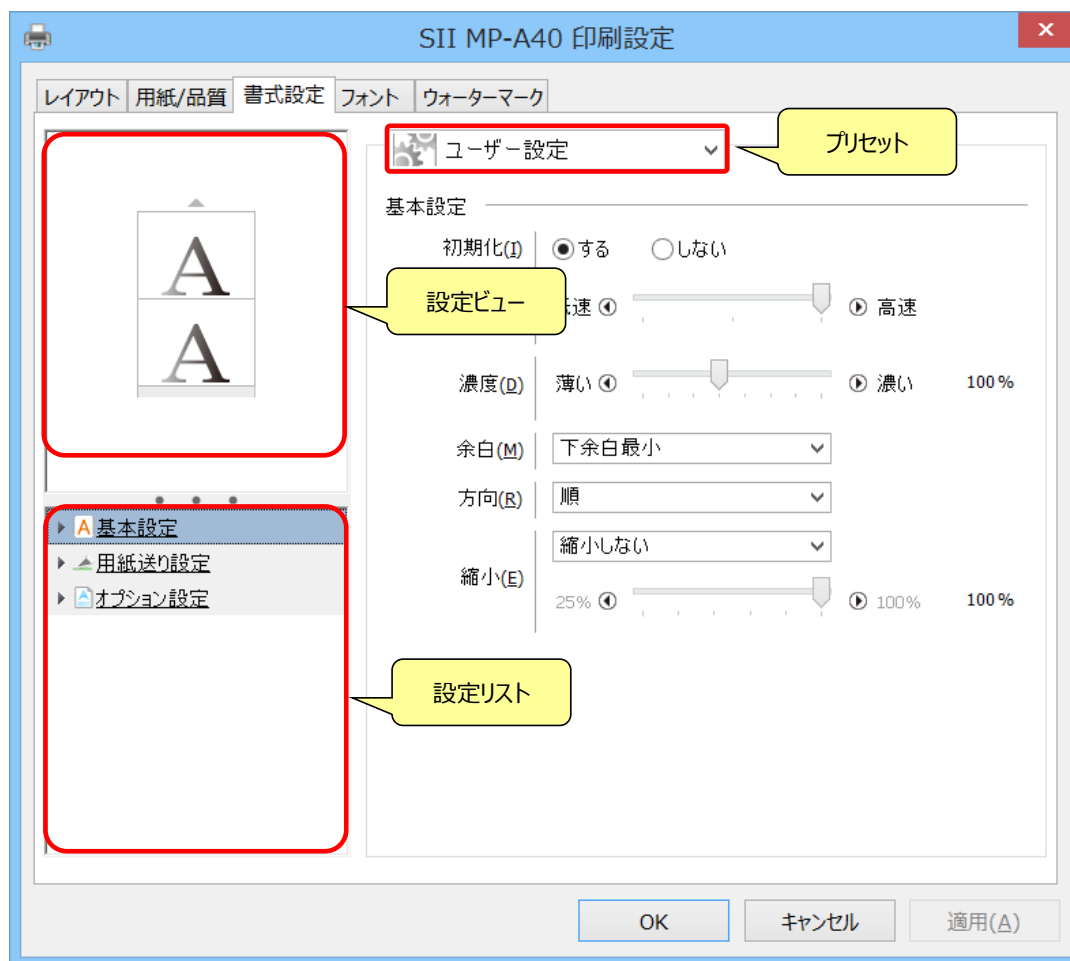




図 3-3 [書式設定]画面

項目	説明 (“ ”: 初期値)
設定ビュー	主な機能の設定状況を各種マークで表示します。 マークについては『3.4.2 [設定ビュー]のマーク一覧』を参照してください。
設定リスト	書式設定の全機能をカテゴリ別に表示します。 カテゴリ名を選択すると、該当する設定画面を表示します。 表示されるカテゴリについては『3.4.3 [設定リスト]のカテゴリ』を参照してください。 カテゴリの先頭の ▶ をクリックすると、カテゴリ内の項目を表示します。 設定が変更された項目は、変更が確定されるまで赤字で表示します。

項目	説明 (“ ”: 初期値)
プリセット	<p>各用途向けに予め登録されている設定内容に一括設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 112 mm レシート設定 ・ 105 mm レシート設定 ・ 100 mm レシート設定 ・ 80 mm レシート設定 ・ 112 mm マーク紙設定 ・ 105 mm マーク紙設定 ・ 100 mm マーク紙設定 ・ 80 mm マーク紙設定 ・ A4→112 mm 縮小設定 ・ A4→105 mm 縮小設定 ・ A4→100 mm 縮小設定 ・ A4→ 80 mm 縮小設定 ・ <u>ユーザー設定</u> <p>各プリセットの設定内容は『3.4.4 プリセットの利用』を参照してください。</p>

3.4.2 [設定ビュー]のマーク一覧

[書式設定]画面の[設定ビュー]で表示されるマークは下記の通りです。

項目	マーク			
印刷の向き(O)	 縦※1		 横※1	
濃度(D)	 薄い		 濃い	
余白(M)	 最小余白	 上余白最小	 下余白最小	 最大余白
方向(R)	 順※2		 逆※2	

※1: [方向(R)]を「順」で選択している場合のマークです。

※2: [印刷の向き(O)]を「縦」で選択している場合のマークです。

3.4.3 [設定リスト]のカテゴリ

[設定リスト]で表示される機能のカテゴリは下記の通りです。

カテゴリ	説明
基本設定	初期化や印字速度等、基本的な項目について設定します。
用紙送り設定	カット位置までの紙送りや、マーク紙利用時のブラックマーク検出動作について設定します。
オプション設定	印刷の各タイミングでの動作を設定します。

各カテゴリの設定項目については、次項以降で説明します。

3.4.4 プリセットの利用

プリセットとは、予め各用途向けに決められたパラメーターに一括設定できる機能です。

プリセットで設定された項目のうち、いずれかの設定が変更されればその時点でプリセットは解除され、[プリセット]は「ユーザー設定」に変更されます。

プリセットを変更すると書式設定以外の項目も指定したプリセットの設定内容に変更されます。その際、各設定が変更されるメッセージは表示されません。

設定できるプリセットの種類とその設定内容は下記の通りです。

プリセット種類	項目	内容
112 mm マーク紙設定 105 mm マーク紙設定 100 mm マーク紙設定 80 mm マーク紙設定	詳細設定	
	用紙サイズ	112 x 297 mm 105 x 297 mm 100 x 297 mm 80 x 297 mm
	書式設定	
	基本設定	
	縮小(E)	縮小しない
	用紙送り設定	
	カット位置まで紙送り(F)	する
	マーク紙の頭出し(M)	しない
	頭出し位置の補正(O)	0 dot
112 mm マーク紙設定 105 mm マーク紙設定 100 mm マーク紙設定 80 mm マーク紙設定	詳細設定	
	用紙サイズ	112 x 297 mm 105 x 297 mm 100 x 297 mm 80 x 297 mm
	書式設定	
	基本設定	
	縮小(E)	縮小しない
	用紙送り設定	
	カット位置まで紙送り(F)	しない
	マーク紙の頭出し(M)	ページ単位
	頭出し位置の補正(O)	0 dot

プリセット種類	項目	内容
A4→112 mm 縮小設定 A4→105 mm 縮小設定 A4→100 mm 縮小設定 A4→ 80 mm 縮小設定	詳細設定	
	用紙サイズ	A4
	書式設定	
	基本設定	
	縮小(E)	112 mm用紙にフィット
		105 mm用紙にフィット
		100 mm用紙にフィット
		80 mm用紙にフィット
	用紙送り設定	
	カット位置まで紙送り(F)	する
	マーク紙の頭出し(M)	しない
	頭出し位置の補正(O)	0 dot

各プリセット共通の設定内容は下記の通りです。

種類	項目	内容
共通設定	レイアウト	
	印刷の向き(O)	縦
	書式設定	
	基本設定	
	初期化(I)	する
	速度(S)	標準
	濃度(D)	100 %
	余白(M)	下余白最小
	方向(R)	順
	オプション設定	
	(全タイミング共通)	
	ロゴ有無(L)	なし
	紙送り(F)	0 dot
	コマンド送信(S)	(空欄)
	ウォーターマーク	
	ウォーターマーク設定	
	イメージ(I)	なし

3.4.5 基本設定

[設定リスト]の[基本設定]を選択し、下記の画面を表示します。

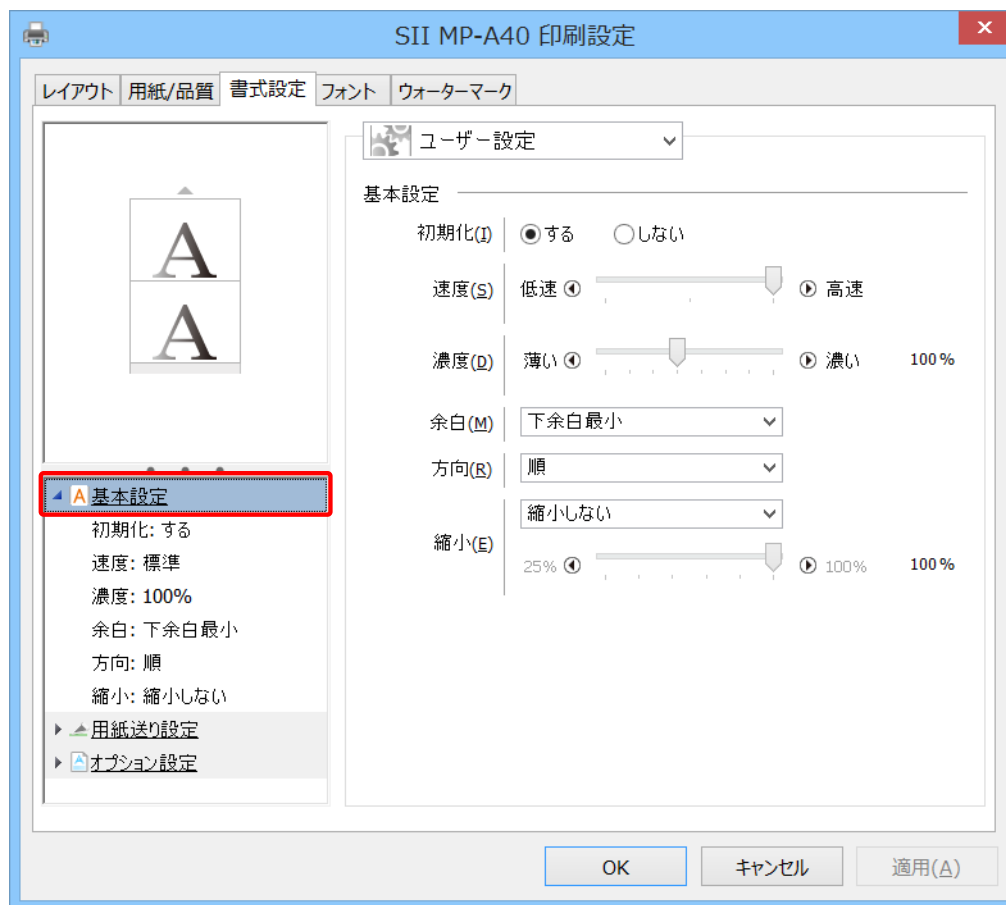


図 3-4 [基本設定]画面

項目	説明 (“___”: 初期値)
基本設定	初期化、印刷速度等、基本的な項目について設定します。
初期化(I)	印刷前にプリンターを初期化するか、初期化しないかを選択します。 ・ <u>する</u> ・ しない
速度(S) ^{※1}	印刷速度を選択します。 ・ <u>標準</u> ・ 品質1 ・ 品質2
濃度(D)	印刷濃度を設定します。(単位: %) ・ 70 ~ 140 ^{※2} (<u>100</u>)
余白(M)	余白を選択します。 ^{※3} ・ 最小余白 ・ 上余白最小 ・ <u>下余白最小</u> ・ 最大余白
方向(R)	印刷排出の方向を選択します。 ^{※4} ・ <u>順</u> ・ 逆

項目	説明（“ ”: 初期値）
縮小(E)	縮小印刷を設定します。※5 ・ <u>縮小しない</u> ・ 112 mm用紙にフィット ・ 105 mm用紙にフィット ・ 100 mm用紙にフィット ・ 80 mm用紙にフィット ・ 指定倍率[25 ~ 100](単位:%)

※1: 標準: 最も高速に印字できます。

品質1: 「標準」より印字速度が低下しますが、イメージやバーコードの印字に適しています。

品質2: 「品質1」より印字速度が低下しますが、最も高品質に印字できます。

※2: プリンターのファームウェアバージョンがVer 2.03.00以降の場合は、印刷濃度を140%まで設定できます。Ver 2.03.00よりも前のバージョンの場合は、印刷濃度は130%までの設定としてください。

プリンターのファームウェアバージョンはテスト印字で確認できます。テスト印字の手順については、「サーマルプリンタ MP-A40 シリーズ 取扱説明書」を参照してください。

※3: 印刷内容が30mmに満たない場合は、30mmとなるまで紙送りします。

※4: 「逆」に設定すると、IPDフォントは使用できません。

※5: 「縮小しない」以外に設定すると、IPDフォントは使用できません。

参考

• 方向

[方向(R)]を「逆」に設定すると、印刷するデータを180度回転させることができます。

• 余白の節約

[余白(M)]を設定することで余白長が短くなり用紙の節約ができます。

	印刷開始から 最初の印刷データまでの 余白を節約	最後の印刷データから 印刷終了までの 余白を節約
・ 最小余白	✓	✓
・ 上余白最小	✓	—
・ 下余白最小	—	✓
・ 最大余白	—	—

余白の詳細については『6.3 余白』を参照してください。

3.4.6 用紙送り設定

[設定リスト]の[用紙送り設定]を選択し、下記の画面を表示します。

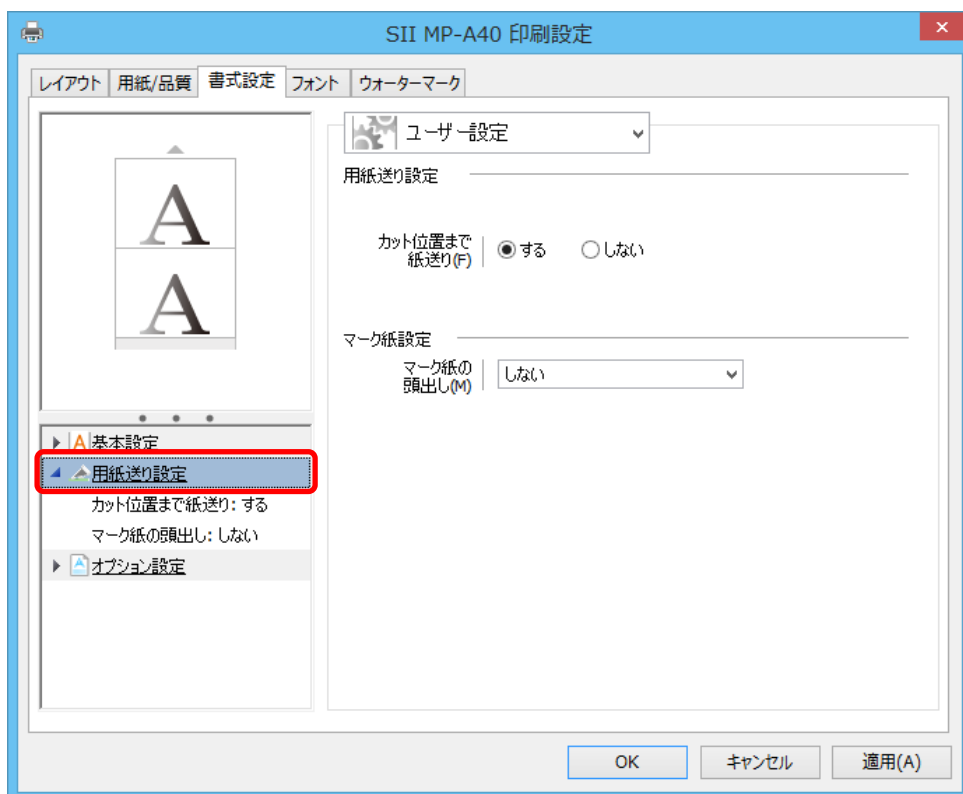


図 3-5 [用紙送り設定]画面

項目	説明 (“ ”: 初期値)
用紙送り設定	カット位置までの紙送りについて設定します。
カット位置まで紙送り(F)	カット位置までの紙送りをするか、しないかを選択します。 ・ <u>する</u> ・ しない
マーク紙設定	マーク紙利用時のブラックマーク検出動作について設定します。
マーク紙の頭出し(M)	ブラックマークの検出動作を設定します。 ・ <u>しない</u> ・ ページ単位 ・ ジョブ単位
頭出し位置の補正(O)	頭出し位置の補正を設定します。(単位: dot) ・ -48 ~ 255 (<u>0</u>)

3.4.7 オプションの設定

[設定リスト]の[オプション設定]を選択し、下記の画面を表示します。

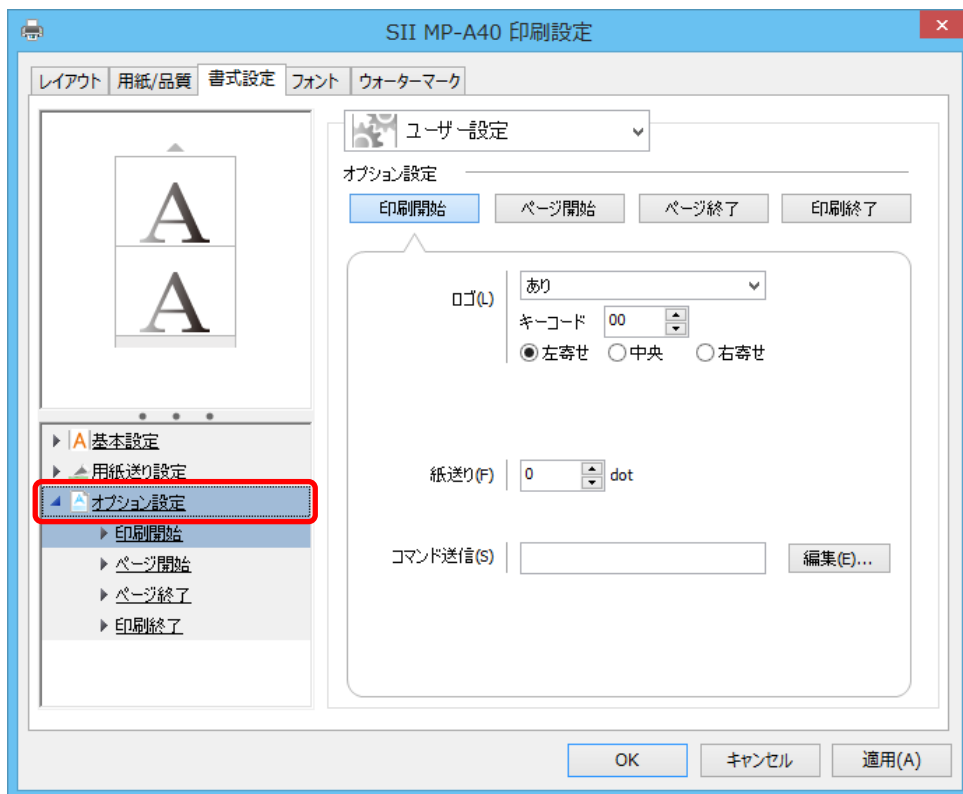


図 3-6 [オプション設定]画面

項目	説明 (“ ”: 初期値)
オプション設定	ロゴ、紙送り、及びコマンド送信について設定します。
印刷開始 ページ開始 ページ終了 印刷終了	各タイミングでの動作を設定します。
ロゴ(L)	ロゴについて設定します。
ロゴ有無	ロゴの有無を選択します。 ・ <u>なし</u> ・ あり
キーコード	ロゴに使用するキーコードを設定します。 ・ <u>00</u> ~ 99
ロゴ位置	ロゴを印刷する位置を選択します。 ・ <u>左寄せ</u> ・ 中央 ・ 右寄せ
紙送り(F)	紙送りを設定します。(単位: dot) ・ -48 ~ 255 (<u>0</u>)

項目	説明 (“ ”: 初期値)
コマンド送信(S)	送信するプリンターコマンドを設定します。
コマンドデータ	送信するプリンターコマンドを表示します。※1 入力には[編集(E)...]ボタンをクリックして表示されるバイナリエディターを使用します。
編集(E)...	バイナリエディターでプリンターコマンドを入力します。 入力したプリンターコマンドは[コマンドデータ]に表示されます。 指定可能バイト数は最大128バイトです。 バイナリエディターについては『3.4.8 バイナリエディターの使用方法』を参照してください。

※1: 直接入力を受け付けません。

参考

• ロゴ

定型のイメージをロゴとして印刷する機能です。ロゴに使用するイメージはNVイメージを利用します。NVイメージについては『5.6 NVイメージ』を参照してください。

3.4.8 バイナリエディターの使用方法

プリンターコマンドや任意のデータを入力するコントロールでは、バイナリエディターを使用します。バイナリエディターは下記の場合に使用します。

- [書式設定]の[オプション設定]の[コマンド送信(S)]
- [コントロールAフォント設定]
- [ツール]の[テスト印刷]の[カスタムコマンド(U)]の設定

[編集(E)...]ボタンをクリックし、下記の画面を表示します。

16進数を入力し、[OK]ボタンをクリックすると入力が確定します。

図 3-7 [バイナリエディター]画面

3.5 フォント

IPDフォントを設定します。

注意

◆ 以下の設定の場合、IPDフォントの設定は利用できません。

- ・『3.2.1 レイアウトの設定』の[印刷の向き(O)] :「横」
- ・『3.4.5 基本設定』の[方向(R)] :「逆」
- ・『3.4.5 基本設定』の[縮小(E)] :「縮小しない」以外
- ・『3.6.4 ウォーターマークの設定』の[イメージ(I)] :「NVイメージ」

参考

- ・ IPDフォントについては『7章 フォント』を参照してください。

3.5.1 フォントの設定

[フォント]タブを選択し、下記の画面を表示します。

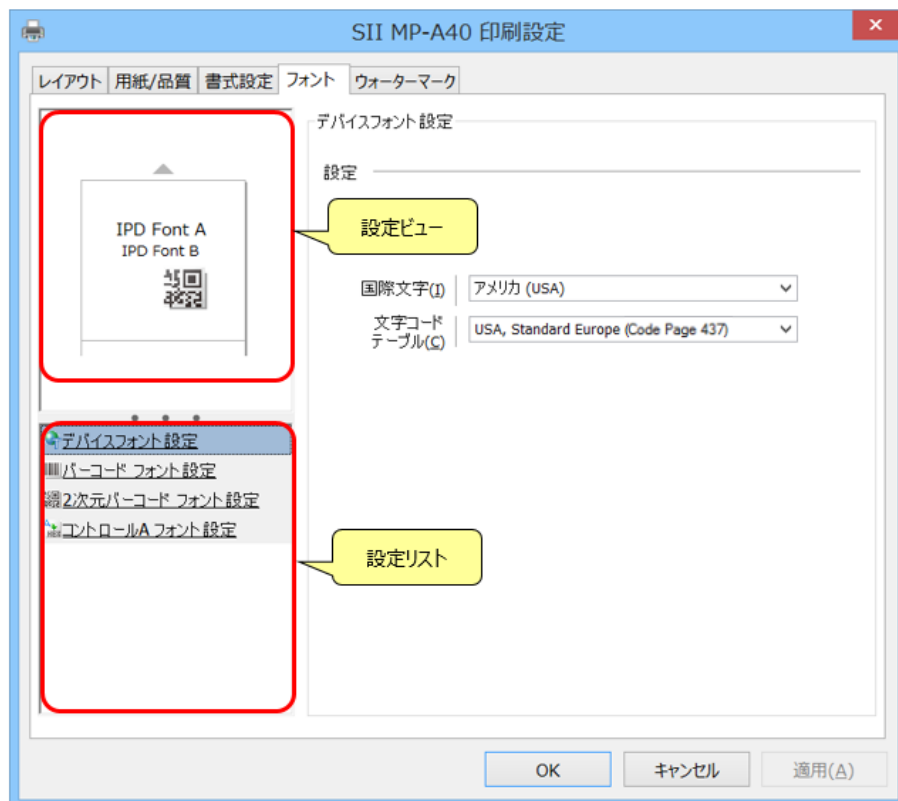




図 3-8 [フォント]画面

項目	説明
設定ビュー	現在の設定状況でIPDフォントが利用できるかをマークで表示します。 マークについては『3.5.2 [設定ビュー]のマーク一覧』を参照してください。
設定リスト	フォントのカテゴリ名を表示します。 カテゴリ名を選択すると該当する設定画面を表示します。

3.5.2 [設定ビュー]のマーク一覧

[フォント]画面の[設定ビュー]で表示されるマークは下記の通りです。

状況	マーク
IPDフォント利用可	
IPDフォント利用不可	

3.5.3 [設定リスト]のカテゴリ

[フォント]画面の[設定リスト]で表示されるカテゴリは下記の通りです。

カテゴリ	説明
デバイスフォント設定	デバイスフォントで使用する国際文字と文字コードテーブルについて設定します。
バーコードフォント設定	バーコードフォントで使用する種別やバーコードのサイズ等について設定します。
2次元バーコードフォント設定	2次元バーコードフォントで使用する種別やバーコードのサイズ等について設定します。
コントロールAフォント設定	コントロールAフォントに割り当てるプリンターコマンドについて設定します。

各カテゴリの設定項目については、次項以降で説明します。

3.5.4 デバイスフォントの設定

[設定リスト]の[デバイスフォント設定]を選択し、下記の画面を表示します。

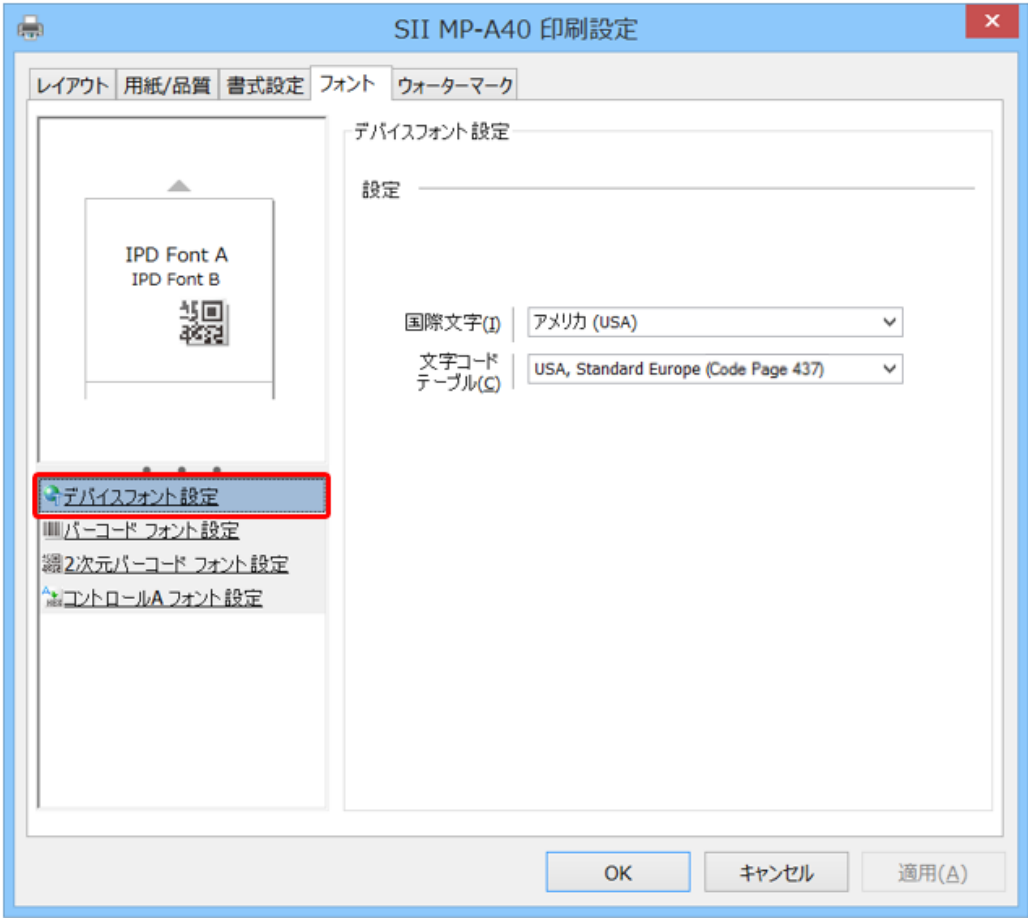


図 3-9 [デバイスフォント設定]画面

項目	説明 (“ ”: 初期値)
設定	デバイスフォントについて設定します。
国際文字(I)	国際文字を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>アメリカ(USA)</u> ・ フランス(France) ・ ドイツ(Germany) ・ イギリス(United Kingdom) ・ デンマーク I (Denmark I) ・ スウェーデン(Sweden) ・ イタリア(Italy) ・ スペイン I (Spain I) ・ 日本(Japan) ・ ノルウェー(Norway) ・ デンマーク II (Denmark II) ・ スペイン II (Spain II) ・ ラテンアメリカ(Latin America) ・ アラビア(Arabia)

項目	説明（“ ”: 初期値）
文字コードテーブル(C)	<p>文字コードテーブルを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ <u>USA, Standard Europe (Code Page 437)</u> ▪ Katakana ▪ Multilingual (Code Page 850) ▪ Portuguese (Code Page 860) ▪ Canadian-French (Code Page 863) ▪ Nordic (Code Page 865) ▪ Turkish (Code Page 857) ▪ Greek (Code Page 737) ▪ Latin (Code Page 1252) ▪ Russian (Code Page 866) ▪ Eastern Europe (Code Page 852) ▪ Euro (Code Page 858) ▪ Cyrillic (Code Page 855) ▪ Arabic (Code Page 864) ▪ Central European (Code Page 1250) ▪ Cyrillic (Code Page 1251) ▪ Greek (Code Page 1253) ▪ Turkish (Code Page 1254) ▪ ユーザーページ

3.5.5 バーコードフォントの設定

[設定リスト]の[バーコードフォント設定]を選択し、下記の画面を表示します。

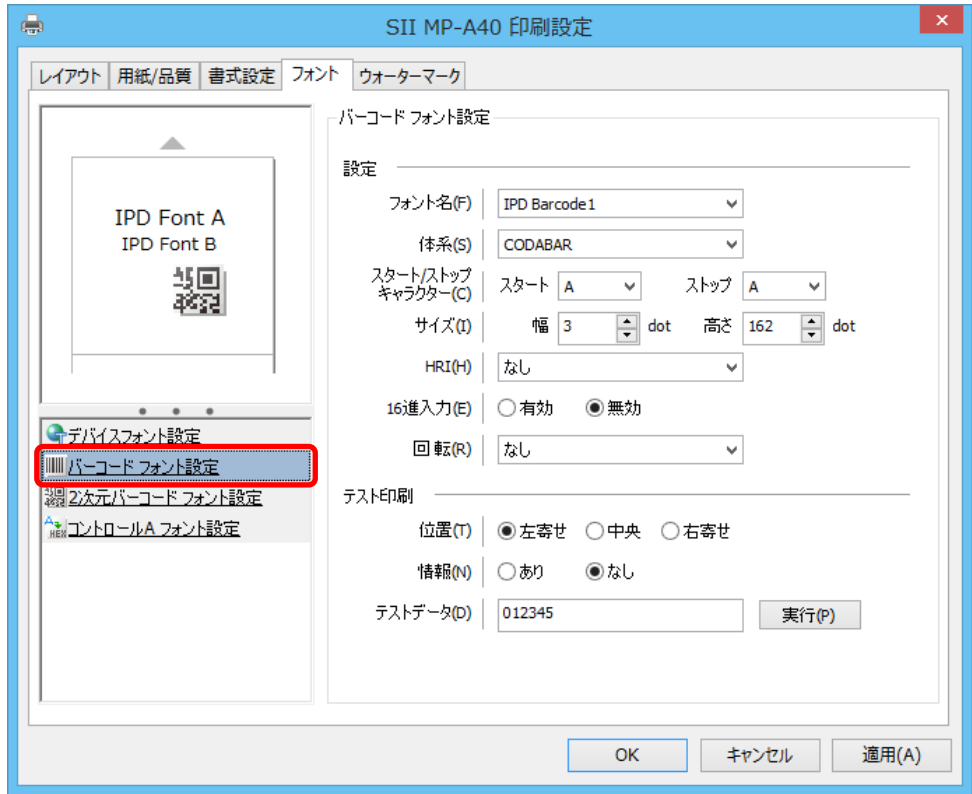


図 3-10 [バーコードフォント設定]画面

項目	説明 (“ ”: 初期値)
設定	バーコードフォントについて設定します。
フォント名(F)	フォント名を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>IPD Barcode1</u> ・ IPD Barcode2 ・ IPD Barcode3 ・ IPD Barcode4 ・ IPD Barcode5 ・ IPD Barcode6 ・ IPD Barcode7 ・ IPD Barcode8 ・ IPD Barcode9 ・ IPD Barcode10

項目	説明 (“ ”: 初期値)
体系(S)	<p>バーコードの体系を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>UPC-A</u> ・ UPC-E ・ JAN13 (EAN13) ・ JAN8 (EAN8) ・ Code39 ・ ITF ・ CODABAR ・ CODE128 ・ CODE93 ・ JAN13 (EAN13) add-on 2 ・ JAN13 (EAN13) add-on 5 ・ GS1 Databar Omni-directional ・ GS1 Databar Truncated ・ GS1 Databar Limited ・ GS1 Databar Expanded
スタート/ストップ キャラクター(C)	スタートキャラクター/ ストップキャラクターを設定します。※1
Start	<p>「CODABAR」のスタートキャラクターを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>A</u> ・ B ・ C ・ D
Stop	<p>「CODABAR」のストップキャラクターを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>A</u> ・ B ・ C ・ D
サイズ(I)	バーコードのサイズを設定します。
幅	<p>バーコードの細エレメント幅またはモジュール幅をドット単位で設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 ~ 6 (<u>3</u>)
高さ	<p>バーコードの高さをドット単位で設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 ~ 255 (<u>162</u>) <p>ただし、下記のバーコードは[幅]の選択によって設定可能な範囲が異なります。※2</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ GS1 Databar Omni-directional ➢ GS1 Databar Truncated ➢ GS1 Databar Limited ➢ GS1 Databar Expanded
HRI(H)	<p>バーコードに付加するHRI文字の位置及びフォントを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>なし</u> ・ バーコードの上(フォントA) ・ バーコードの下(フォントA) ・ バーコードの上下(フォントA) ・ バーコードの上(フォントB) ・ バーコードの下(フォントB) ・ バーコードの上下(フォントB)

項目	説明（“ ”: 初期値）
16進入力(E)	バーコードフォントデータまたは[テストデータ(D)]を16進数で入力する場合は、「有効」を選択します。※3 ・ 有効 ・ <u>無効</u>
回転(R)	バーコードの印刷時の回転有無と回転時の角度を選択します。 ・ <u>なし</u> ・ 右に90度 ・ 180度 ・ 左に90度
テスト印刷	テスト印刷について設定します。
位置(T)	バーコードの位置を選択します。 ・ <u>左寄せ</u> ・ 中央 ・ 右寄せ
情報(N)	[設定]の情報を付加して印刷するか選択します。 ・ あり ・ <u>なし</u>
テストデータ(D)	テスト印刷するデータを入力します。 入力可能文字数は最大64文字で、半角入力のみ有効です。※3
実行(P)	入力された設定・[テストデータ(D)]でバーコードを印刷します。※4

※1: [体系(S)]で「CODABAR」を選択した場合のみ画面に表示されます。

※2: バーコードの高さの値の範囲は下記の通りです。

[高さ]の値を最小値未満に指定した場合は、値は自動的に最小値へ変更されます。

[体系(S)]	[幅]	[高さ]の値の範囲
GS1 Databar Omni-directional	2	66 ~ 255
	3	99 ~ 255
	4	132 ~ 255
	5	165 ~ 255
	6	198 ~ 255
GS1 Databar Truncated	2	26 ~ 255
	3	39 ~ 255
	4	52 ~ 255
	5	65 ~ 255
	6	78 ~ 255
GS1 Databar Limited	2	20 ~ 255
	3	30 ~ 255
	4	40 ~ 255
	5	50 ~ 255
	6	60 ~ 255
GS1 Databar Expanded	2	68 ~ 255
	3	102 ~ 255
	4	136 ~ 255
	5	170 ~ 255
	6	204 ~ 255

- ※3: バーコードフロントデータの入力形式は下記の通りです。
バーコードフロントデータ(012345)入力例
[16進入力(E)]が「無効」の場合 : 012345
[16進入力(E)]が「有効」の場合 : 303132333435
- ※4: [テストデータ(D)]が空白の場合、操作できません。

3.5.6 2次元バーコードフォントの設定

[設定リスト]の[2次元バーコードフォント設定]を選択し、下記の画面を表示します。

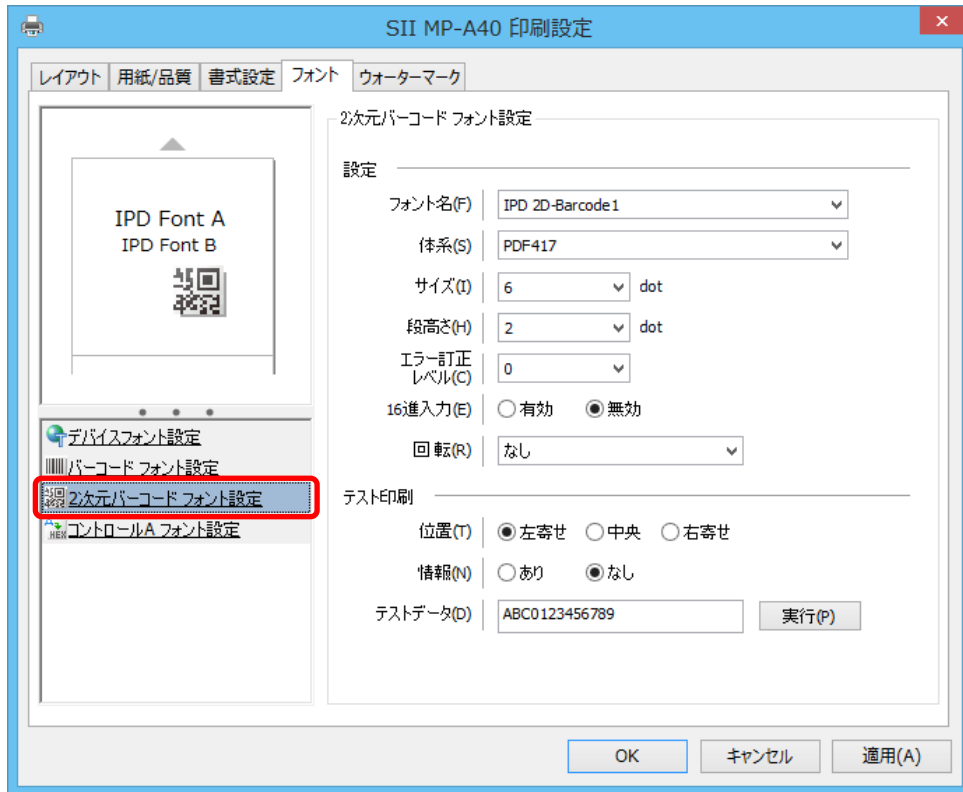


図 3-11 [2次元バーコードフォント設定]画面

項目	説明 (“ ”: 初期値)
設定	2次元バーコードフォントについて設定します。
フォント名(F)	フォント名を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>IPD 2D-Barcode1</u> ・ IPD 2D-Barcode2 ・ IPD 2D-Barcode3 ・ IPD 2D-Barcode4 ・ IPD 2D-Barcode5
体系(S)	2次元バーコードの体系を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>QR Code Model-2</u> ・ PDF417 ・ Data Matrix ・ Maxi Code ・ GS1 Databar Stacked ・ GS1 Databar Stacked Omni-directional ・ GS1 Databar Expanded Stacked
サイズ(I)	1モジュールのサイズをドット単位で設定します。 ^{※1} <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 ~ 16 (<u>6</u>)^{※2} ・ 2 ~ 8 (<u>3</u>)^{※3}
段高さ(H)	段高さをドット単位で設定します。 ^{※4} <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 ~ 127 (<u>10</u>)^{※5} ・ <u>33</u> ~ 255^{※6}

項目	説明（“ <u> </u> ”: 初期値）
エラー訂正レベル(C)	QR Codeのエラー訂正レベルを選択します。※7 ※8 ・ <u>L</u> ・ M ・ Q ・ H PDF417のエラー訂正レベルを選択します。※7 ※9 ・ <u>0</u> ~ 8
モード(M)	モードを選択します。※10 ・ Mode 2 ・ Mode 3 ・ <u>Mode 4</u> ・ Mode 5
モジュール数(O)	モジュール数を選択します。※11 ・ <u>Auto</u> ・ 10×10 ・ 12×12 ・ 14×14 ・ 16×16 ・ 18×18 ・ 20×20 ・ 22×22 ・ 24×24 ・ 26×26 ・ 32×32 ・ 36×36 ・ 40×40 ・ 44×44 ・ 48×48 ・ 52×52 ・ 64×64 ・ 72×72 ・ 80×80 ・ 88×88 ・ 96×96 ・ 104×104 ・ 120×120 ・ 132×132 ・ 144×144 ・ 8×18 ・ 8×32 ・ 12×26 ・ 12×36 ・ 16×36 ・ 16×48
エレメント数(L)	エレメント数を設定します。※12 ・ 2 ~ 20 (<u>10</u>)
16進入力(E)	バーコードフォントデータまたは[テストデータ(D)]を16進数で入力する場合は、「有効」を選択します。※13 ・ 有効 ・ <u>無効</u>

項目	説明（“ ”: 初期値）
回転(R)	2次元バーコードの印刷時の回転有無と回転時の角度を選択します。 ・ <u>なし</u> ・ 右に90度 ・ 180度 ・ 左に90度
テスト印刷	テスト印刷について設定します。
位置(T)	2次元バーコードの位置を選択します。 ・ <u>左寄せ</u> ・ 中央 ・ 右寄せ
情報(N)	[設定]の情報を付加して印刷するか選択します。 ・ あり ・ <u>なし</u>
テストデータ(D)	テスト印刷するデータを入力します。 入力可能文字数は最大64文字で、半角文字及び全角文字のいずれも有効です。※13
実行(P)	入力された設定・[テストデータ(D)]で2次元バーコードを印刷します。※14

※1: [体系(S)]で下記を選択した場合のみ画面に表示されます。

- ・ QR Code Model-2
- ・ PDF417
- ・ Data Matrix
- ・ GS1 Databar Stacked
- ・ GS1 Databar Stacked Omni-directional
- ・ GS1 Databar Expanded Stacked

※2: [体系(S)]で下記を選択した場合の値です。

- ・ QR Code Model-2
- ・ Data Matrix
- ・ GS1 Databar Stacked
- ・ GS1 Databar Stacked Omni-directional
- ・ GS1 Databar Expanded Stacked

※3: [体系(S)]で「PDF417」を選択した場合の値です。

※4: [体系(S)]で下記を選択した場合のみ画面に表示されます。

- ・ PDF417
- ・ GS1 Databar Stacked Omni-directional

※5: [体系(S)]で「PDF417」を選択した場合の値です。

※6: [体系(S)]で「GS1 Databar Stacked Omni-directional」を選択した場合の値です。

※7: [体系(S)]で下記を選択した場合のみ画面に表示されます。

- ・ QR Code Model-2
- ・ PDF417

※8: [体系(S)]で「QR Code Model-2」を選択した場合の値です。

※9: [体系(S)]で「PDF417」を選択した場合の値です。

※10: [体系(S)]で「Maxi Code」を選択した場合のみ画面に表示されます。

※11: [体系(S)]で「Data Matrix」を選択した場合のみ画面に表示されます。

※12: [体系(S)]で「GS1 Databar Expanded Stacked」を選択した場合のみ画面に表示されます。

※13: バーコードフロントデータの入力形式は下記の通りです。

バーコードフロントデータ(012345)入力例

[16進入力(E)]が「無効」の場合 : 012345

[16進入力(E)]が「有効」の場合 : 303132333435

※14: [テストデータ(D)]が空白の場合、操作できません。

3.5.7 コントロールAフォントの設定

[設定リスト]の[コントロールAフォント設定]を選択し、下記の画面を表示します。

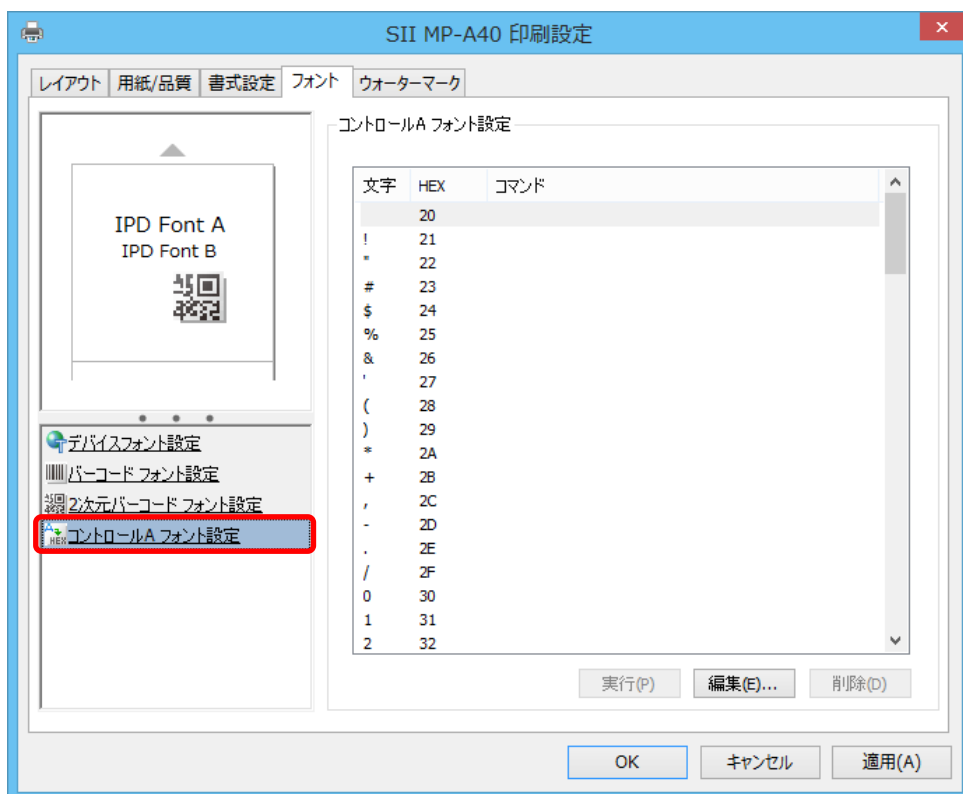


図 3-12 [コントロールAフォント設定]画面

項目	説明
文字	プリンターコマンドを割り当てる文字を表示します。
HEX	[文字]を16進数で表示します。
コマンド	設定されているプリンターコマンドを表示します。 プリンターコマンドの入力は[編集(E)...]ボタンをクリックして表示されるバイナリエディターを使用します。
実行(P)	選択中のリストに入力されているプリンターコマンドを実行します。 ※1
編集(E)...	バイナリエディターでプリンターコマンドを入力します。※2 入力したプリンターコマンドは[コマンド]列に表示されます。 指定可能バイト数は最大256バイトです。 バイナリエディターについては『3.4.8 バイナリエディターの使用方法0』を参照してください。
削除(D)	選択中のリストの[コマンド]欄をクリアします。※1 ※2

※1: 選択中のリストの[コマンド]が空白の場合は、操作できません。

※2: アプリケーションからの印刷時に起動された[印刷設定]画面からは操作できません。操作が必要な場合は、プリンターフォルダーから[印刷設定]画面を起動してください。

3.6 ウォーターマーク

印刷内容に重ねるイメージを設定します。

重ねるイメージはユーザーが事前にプリンターに登録したNVイメージを使用します。

ウォーターマークを利用するにはNVイメージの登録が必要です。NVイメージの登録については『5.6 NVイメージ』を参照してください。

注意

- ◆ ウォーターマークとして使用するNVイメージが印刷領域よりも大きい場合、ウォーターマーク印刷はされません。

3.6.1 ウォーターマーク

[ウォーターマーク]タブを選択し、下記の画面を表示します。

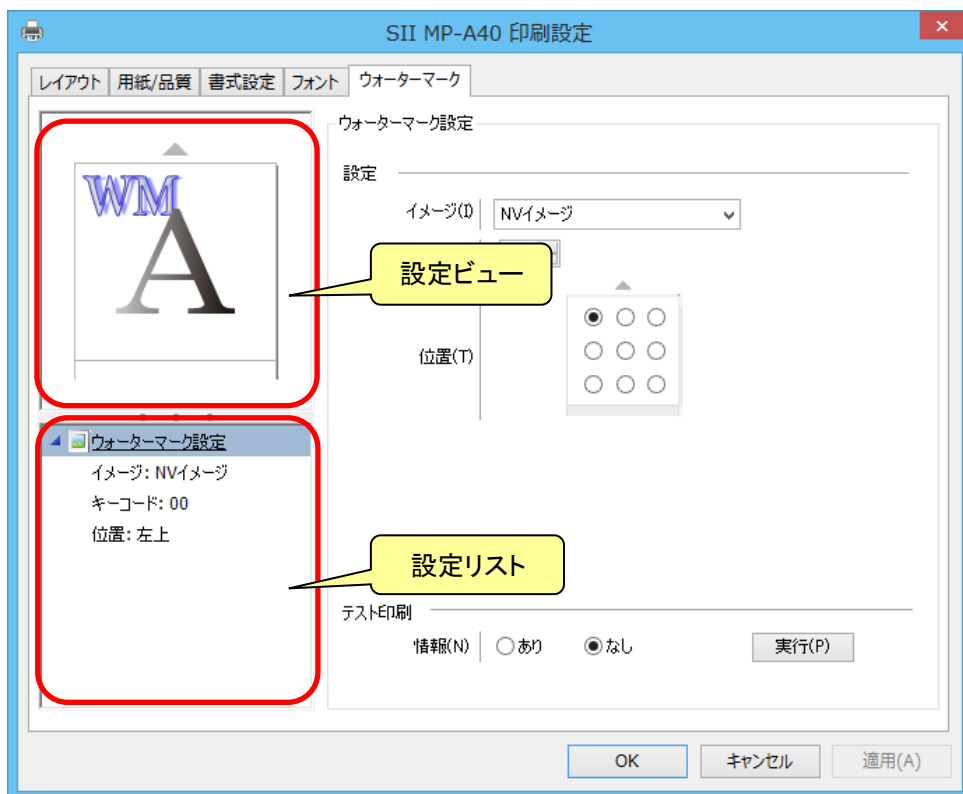


図 3-13 [ウォーターマーク]画面

項目	説明
設定ビュー	ウォーターマークの位置をマークで表示します。 詳しくは『3.6.2 [設定ビュー]のマーク一覧』を参照してください。
設定リスト	ウォーターマークの設定をカテゴリで表示します。 カテゴリ名を選択すると、該当する設定画面を表示します。 表示されるカテゴリについては『3.6.3 [設定リスト]のカテゴリ』を参照してください。 カテゴリの先頭の ▶ をクリックすると、カテゴリ内の項目を表示します。 設定が変更された項目は、変更が確定されるまで赤字で表示します。

3.6.2 [設定ビュー]のマーク一覧

[ウォーターマーク]画面の[設定ビュー]で表示されるマークは下記の通りです。

項目	マーク		
位置(T)	 左上	 中央上	 右上
	 左	 中央	 右
	 左下	 中央下	 右下

3.6.3 [設定リスト]のカテゴリ

[ウォーターマーク]画面の[設定リスト]で表示される設定は下記の通りです。

カテゴリ	説明
ウォーターマーク設定	ウォーターマークについて設定します。

ウォーターマーク設定については、次項以降で説明します。

3.6.4 ウォーターマークの設定

[ウォーターマーク]タブを選択し、下記の画面を表示します。

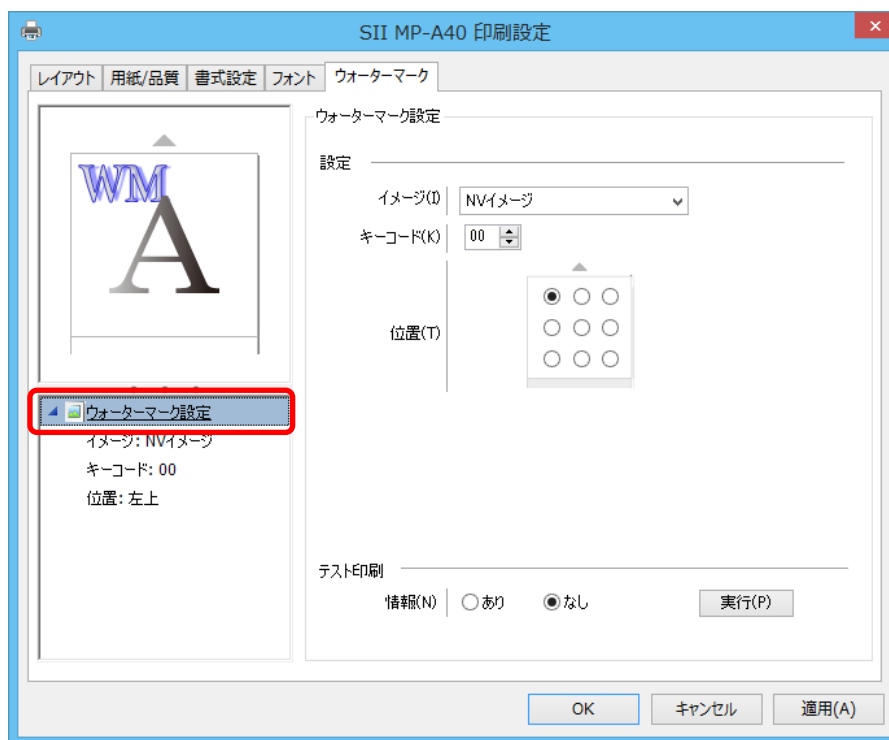


図 3-14 [ウォーターマーク設定]画面

項目	説明 (“ ”: 初期値)
設定	ウォーターマークについて設定します。
イメージ(I)	ウォーターマークで使用するイメージの種類を設定します。 ^{※1} ・ <u>なし</u> ・ NVイメージ
キーコード(K)	ウォーターマークに使用するイメージのキーコードを入力します。 ^{※2} ・ <u>00</u> ~ 99
位置(T)	ウォーターマークの位置を選択します。 ^{※2} ・ <u>左上</u> ・ 中央上 ・ 右上 ・ 左 ・ 中央 ・ 右 ・ 左下 ・ 中央下 ・ 右下
テスト印刷	テスト印刷について設定します。 ^{※2}
情報(N)	[設定]の情報を付加して印刷するか選択します。 ・ あり ・ <u>なし</u>
実行(P)	入力された設定・データでウォーターマークを印刷します。

※1: 「なし」以外を選択すると、IPDフォントは使用できません。

※2: [イメージ(I)]を「なし」に選択している場合は、表示されません。

3.6.5 ウォーターマークの利用

下記にウォーターマークを利用する手順について説明します。

1. 『5.6 NVイメージ』でウォーターマークに使用するイメージを登録します。
2. [印刷設定]の[ウォーターマーク設定]画面の[イメージ(I)]で「NVイメージ」を選択します。
3. ウォーターマークに使用するイメージのキーコードを[キーコード(K)]に入力します。
4. ウォーターマークの位置を[位置(T)]で選択します。
5. [適用(A)]ボタンをクリックします。

3.7 詳細設定

3.7.1 詳細オプションの設定

[レイアウト]タブ及び[用紙/品質]タブの、右下の[詳細設定(V)...]ボタンをクリックし、下記の画面を表示します。

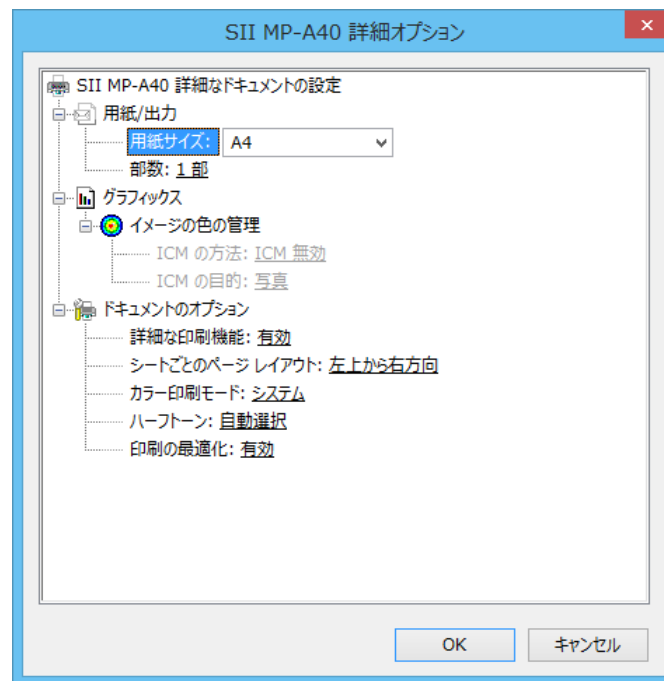


図 3-15 [詳細オプション]画面

項目	説明 (“ ”: 初期値)
用紙/出力	用紙サイズ、部数を設定します。
用紙サイズ	使用する用紙サイズを選択します。 ^{※1} <ul style="list-style-type: none">・ 112 x 297 mm・ 105 x 297 mm・ 100 x 297 mm・ 80 x 297 mm・ 112 x 1188 mm・ 105 x 1188 mm・ 100 x 1188 mm・ 80 x 1188 mm・ <u>A4</u>^{※2}・ <u>Letter</u>^{※3}
部数	印刷する部数を入力します。(単位: 部) <ul style="list-style-type: none">・ <u>1</u> ~ 9999

項目	説明 (“ ”: 初期値)
グラフィックス	ICMの方法、目的を設定します。※4
ICMの方法	ICMの方法を選択します。 ・ <u>ICM無効</u> ・ ホストシステムによるICM処理 ・ プリンターによるICM処理
ICMの目的	ICMの目的を選択します。 ・ <u>グラフィック</u> ・ <u>写真</u> ・ 校正 ・ 一致
ドキュメントのオプション	ドキュメントのオプションを設定します。
詳細な印刷機能	詳細な印刷機能を選択します。 ・ <u>有効</u> ・ 無効
シートごとの ページレイアウト	シートごとのページレイアウトを選択します。 ・ <u>左上から右方向</u> ・ 左上から下方向 ・ 右上から左方向 ・ 右上から下方向
カラー印刷モード	カラー印刷モードを選択します。 ・ <u>システム</u> ・ ドライバー この選択は『3.3 用紙・品質』の[色]の設定と連動しています。※5
ハーフトーン	ハーフトーンを選択します。※6 ・ <u>自動選択</u> ・ スーパーセル ・ ディザー 2x2 ・ ディザー 4x4 ・ ディザー 6x6 ・ ディザー 8x8
印刷の最適化	印刷の最適化を選択します。 ・ <u>有効</u> ・ 無効

※1: ユーザーが新規に登録した用紙を設定することもできます。用紙に登録する方法については、『6.4 カスタム用紙の登録方法』を参照してください。

※2: 日本語環境での初期値です。

※3: 日本語環境以外での初期値です。

※4: 『3.3 用紙・品質』の[色]で「カラー(O)」を選択した場合のみ設定できます。

※5: 「システム」を選択した場合は[用紙/品質]タブの[色]が「白黒(C)」、「ドライバー」を選択した場合は[用紙/品質]タブの[色]が「カラー(O)」に連動します。詳しくは『3.3 用紙・品質』を参照してください。

※6: 『3.3 用紙・品質』の[色]で「カラー(O)」を選択した場合は、「自動選択」以外は選択できません。

4章 プロパティ

4.1 概要

本章ではプロパティ設定について説明します。

プロパティ設定は[プロパティ]ダイアログに各種設定画面が表示され、それぞれ確認及び変更できます。

[プロパティ]ダイアログ上で表示される設定画面には下記の種類があります。

- ・ 全般 : プリンタードライバー全般の管理及びテストページを印刷します。
- ・ 共有 : 共有プリンターを設定します。
- ・ ポート : 出力ポートを設定します。
- ・ ツール : プリンタードライバーのバージョン情報と各種ツールの起動ボタンを表示します。

[プロパティ]ダイアログ上の設定画面は下記の手順で表示できます。

1. [プリンターフォルダー]内に表示されているプリンターアイコンを右クリックしてサブメニューを表示します。
2. 表示されたサブメニューから[プリンターのプロパティ(P)]を選択します。

各詳細は次項以降で説明します。

注意

- ◆ [プロパティ]画面で表示される上記以外の設定画面は、インストール時の設定のままで使用してください。

4.2 全般

プリンタードライバー全般の管理及びテストページを印刷します。

4.2.1 全般の設定

[全般]タブを選択し、下記の画面を表示します。



図 4-1 [全般]画面

項目	説明
プリンター名	プリンター名を表示、変更します。※1
場所(L)	プリンターの設置場所を入力します。
コメント(C)	コメントを入力します。
モデル(O)	プリンタードライバー名を表示します。
基本設定(E)...	[印刷設定]画面が開きます。
テストページの印刷(T)	Windowsのテスト印刷を実行します。※2

※1: プリンター名を変更した場合、[基本設定(E)...]で設定していた値は初期化される場合があります。

※2: [テストページの印刷(T)]による印刷は、小型プリンター向け用紙幅では正しく印刷できないため印刷内容が崩れますが、不具合ではありません。

4.3 共有

共有プリンターを設定します。

4.3.1 共有の設定

[共有]タブを選択し、下記の画面を表示します。

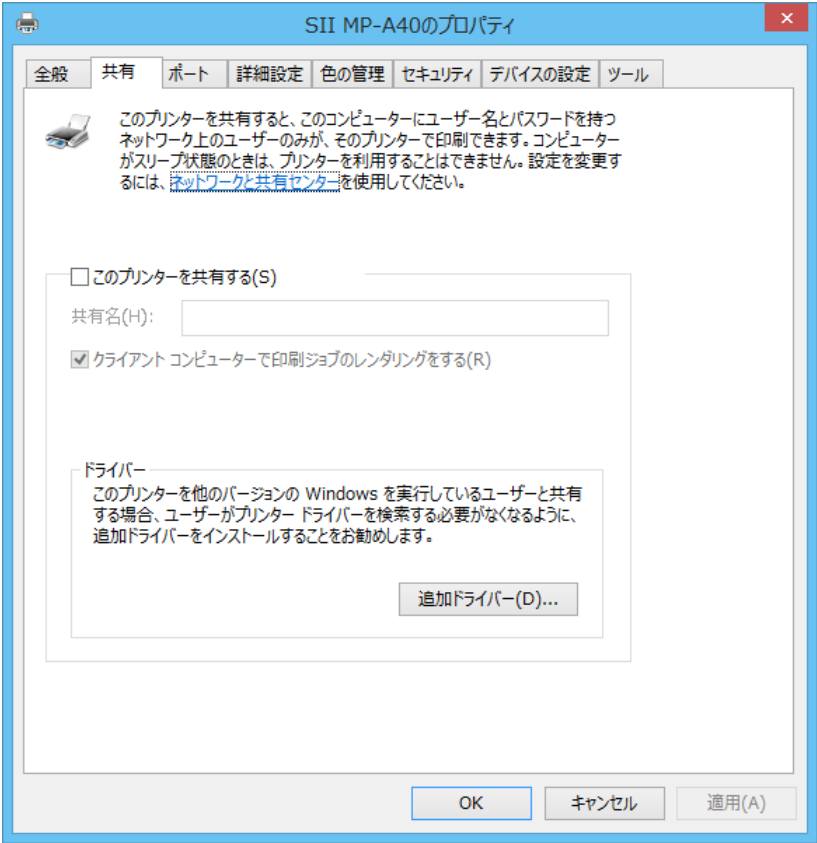


図 4-2 [共有]画面

項目	説明
このプリンターを共有する(S)	チェックを入れ、[共有名(H)]に任意の共有名を入力するとプリンタードライバーをネットワーク上の別のコンピューターから利用できます。
共有名(H)	プリンターの共有名を入力します。
追加ドライバー(D)...	この機能はサポートしていません。

注意

- ◆ 共有プリンターでの使用は、ネットワークの利用状況等により正常に動作しないことがあります。

4.4 ポート

出力ポートを設定します。

4.4.1 ポートの設定

[ポート]タブを選択し、下記の画面を表示します。

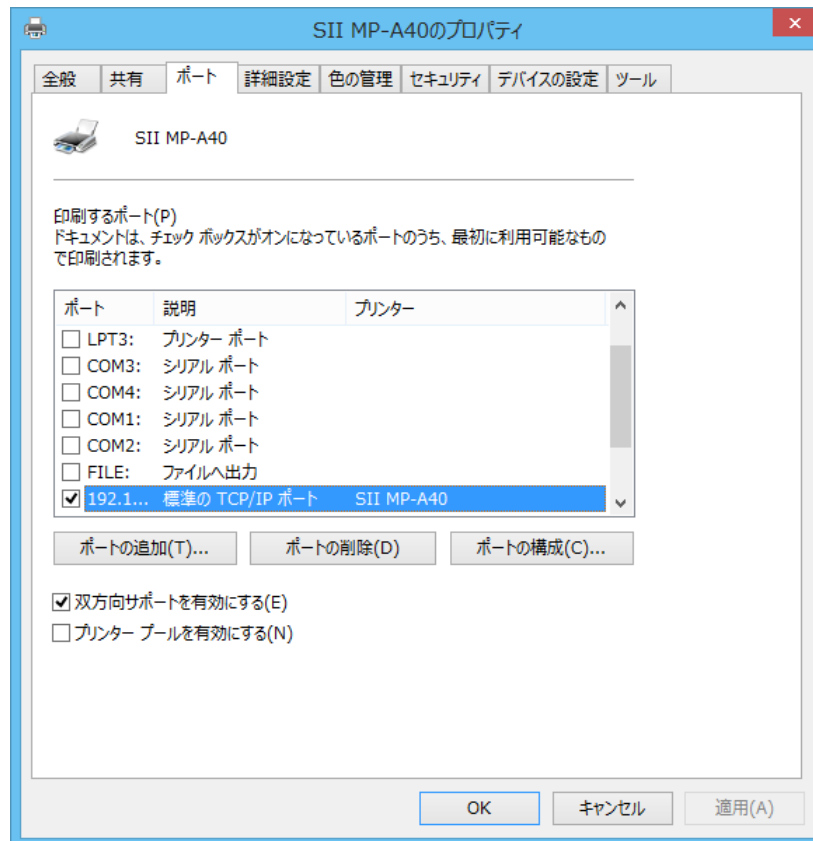


図 4-3 [ポート]画面

項目	説明
ポートの追加(T)...	ユーザーがポートを追加できます。
ポートの削除(D)	ユーザーが追加したポートを削除できます。
ポートの構成(C)...	シリアル接続時の通信について設定します。※ ¹
双方向サポートを有効にする(E)	プリンターから情報を取得するにはチェックボックスをオンにします。※ ²
プリンタープールを有効にする(N)	有効にすることで複数のポートのチェックボックスをオンにできるようになり、複数のポートに接続しているプリンターで同じ内容を印刷できます。※ ³

※¹: 設定にはコンピューターの管理者権限が必要です。

※²: チェックボックスをオフにした場合は、ツール及びSDKは使用できなくなります。

※³: SDKを利用する場合は、必ずチェックボックスをオフにしてください。

4.5 ツール

プリンタードライバーのバージョン情報と各種ツールの起動ボタンを表示します。

各種ツールの詳細については『5章 ツール』を参照してください。

5章 ツール

5.1 概要

本章ではプリンタードライバーから起動できる各種ツールについて説明します。

各種ツールは[プロパティ]ダイアログ上の[ツール]画面から起動します。起動後のツール画面上部のツールパネルからも他のツールへ移動できます。

起動できる各種ツールは下記の通りです。

- ・ プリンター情報 : プリンターの各種情報を表示します。
- ・ メモリスイッチ : メモリスイッチを設定します。
- ・ ログ : プリンタードライバーのログ出力を設定します。
- ・ テスト印刷 : 任意の内容でテスト印刷を実行します。
- ・ NVイメージ : ロゴまたはウォーターマークで使用するイメージデータの編集、登録、または登録されているNVイメージを管理します。
- ・ コードページ : ユーザーが登録できるフォントデータを編集、登録、または登録されているコードページを管理します。
- ・ その他 : プリンタードライバーの設定内容をファイルにエクスポート、またはエクスポートしたファイルをインポートします。

注意

- ◆ 以下の機能を利用するにはコンピューターの管理者権限が必要です。
 - ・ メモリスイッチのプリンターへ登録
 - ・ ログのログ出力
 - ・ NVイメージのプリンターへ登録
 - ・ NVイメージの削除
 - ・ コードページのプリンターへ登録
 - ・ コードページの削除
- ◆ 『4.4 ポート』の「双方向サポートを有効にする(E)」のチェックボックスがオフになっている場合、各ツールは起動できません。
- ◆ ツール起動中は、[プロパティ]ダイアログは操作できません。

5.1.1 [ツール]の表示

[ツール]タブを選択し、下記の画面を表示します。

[ツール]画面には、バージョン情報及び各種ツールを起動するためのボタンを表示します。

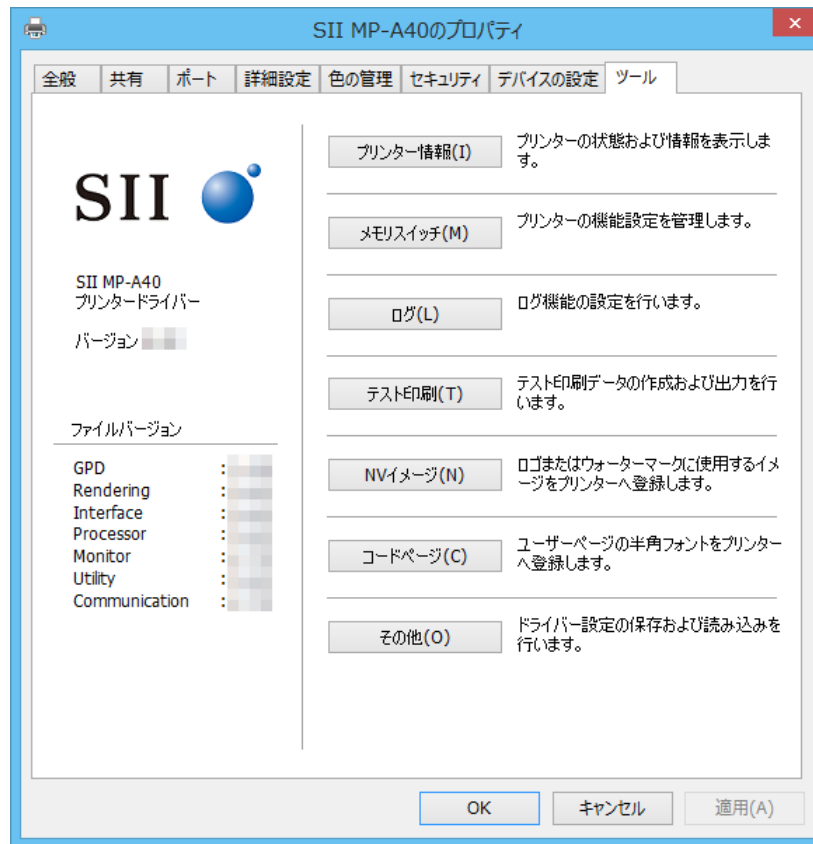


図 5-1 [ツール]画面

項目	説明
バージョン情報	プリンタードライバーのファイル情報を表示します。
ツール起動ボタン	各ボタンをクリックすると、それぞれのツールが起動します。

5.2 プリンター情報

プリンターの各種情報を表示します。

5.2.1 プリンター情報の表示

ツールパネルの[プリンター情報]を選択し、下記の画面を表示します。

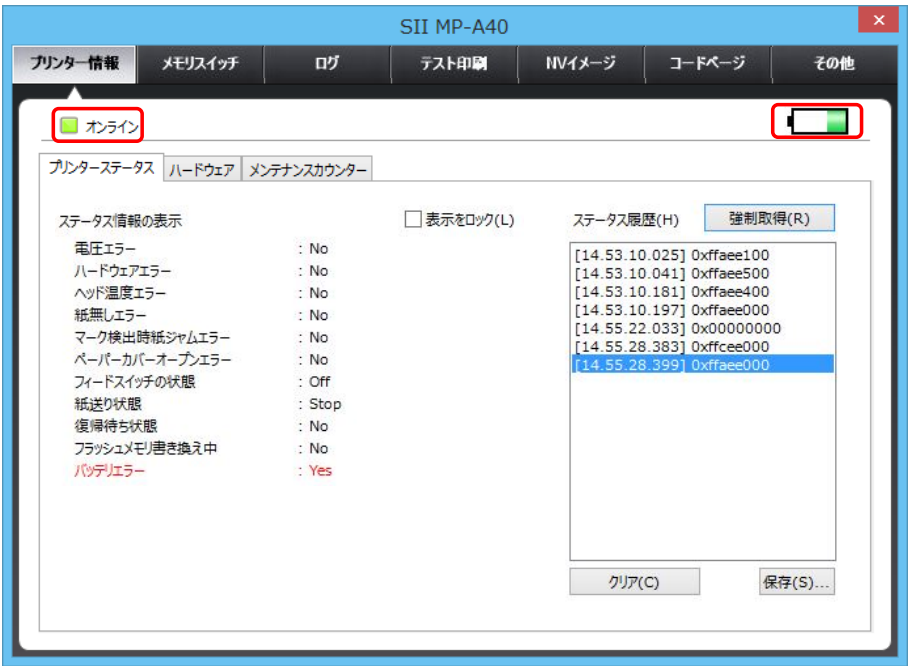


図 5-2 [プリンター情報]画面

項目	説明
接続状態	プリンターとの接続状態を表示します。 ・ オンライン(インジケータ: 緑色) ・ オフライン(インジケータ: 灰色)
バッテリー残量	バッテリーの残量を表示します。 Fullの場合は、バッテリーインジケータが全て緑色です。バッテリー残量が減るにつれてバッテリーインジケータの緑色が減ります。

5.2.2 プリンターステータスの表示

[プリンター情報]画面から[プリンターステータス]タブを選択し、下記の画面を表示します。



図 5-3 [プリンターステータス]画面

項目	説明
ステータス情報の表示	プリンターステータス情報を表示します。 ^{※1} [ステータス履歴(H)]で選択されているステータス情報を表示します。
表示をロック(L)	[ステータス履歴(H)]の選択をロックします。 ^{※2} チェックボックスがオフの場合は、[ステータス履歴(H)]の最新を常に選択状態とします。この際、プリンターステータスが変化するたびに[ステータス履歴(H)]は選択が最新に変更され、自動的にスクロールします。 チェックボックスがオンの場合は、ユーザーが[ステータス履歴(H)]内で指定したプリンターステータスに変化しても[ステータス履歴(H)]の選択は変更されず、自動的にスクロールされません。 また、表示をロック中に選択中の行が削除された場合は、削除されるたびにその下の行が選択状態になり、[ステータス情報の表示]に表示されます。
ステータス履歴(H)	プリンターステータスの応答履歴をリスト表示します。 ・ 応答時間: [hh.mm.ss.fff] (時間:00 ~ 23、分:00 ~ 59、秒:00.000 ~ 59.999) ・ 応答内容: プリンターステータスを16進数(32ビット)で表示 ^{※3} ^{※4}
クリア(C)	[ステータス履歴(H)]に表示した情報を消去し、履歴を初期化します。 ^{※2}
強制取得(R)	プリンターステータスを取得するプリンターコマンドを発行し強制的にプリンターからプリンターステータスを取得します。 ^{※5}
保存(S)...	[名前を付けて保存]ダイアログで保存先とファイル名を指定し、[ステータス履歴(H)]の内容をテキストファイル(*.csv)として保存します。 デフォルトの保存先はルートフォルダーです。 ^{※2} ^{※6}

- ※1: プリンターから情報が取得できなかった場合は、状態を表示する部分が「 - 」で表示されます。
- ※2: [ステータス履歴(H)]が空白の場合は、操作できません。
- ※3: 詳細は『5.2.3 ステータスの一覧』を参照してください。
- ※4: [ステータス履歴(H)]内に表示可能な履歴の数は最大100件です。それ以降は古いものから削除されます。
- ※5: 取得したプリンターステータスが取得済みの最新のプリンターステータスと同じ場合は、表示は更新されません。
- ※6: 保存されるプリンターステータス履歴は[保存(S)...]ボタンをクリックした時点での[ステータス履歴(H)]の内容です。この時点より後のプリンターステータスの応答は保存するファイルに反映されません。

5.2.3 ステータスの一覧

[ステータス履歴(H)]で表示する16進数(32ビット)データ形式での応答内容の対応ビットは下記の通りです。

ステータス	対応ビット	内容
電圧エラー	0x00000000	No
	0x00000001	Yes
ハードウェアエラー	0x00000000	No
	0x00000002	Yes
ヘッド温度エラー	0x00000000	No
	0x00000004	Yes
紙無しエラー	0x00000000	No
	0x00000010	Yes
マーク検出時紙ジャムエラー	0x00000000	No
	0x00000040	Yes
ペーパーカバーオープンエラー	0x00000000	No
	0x00000080	Yes
フィードスイッチの状態	0x00000000	Off
	0x00000100	On
紙送り状態	0x00000000	Stop
	0x00000400	Operating
復帰待ち状態	0x00000000	No
	0x00000800	Yes
フラッシュメモリ書き換え中	0x00000000	No
	0x00010000	Yes
バッテリーエラー	0x00000000	No
	0x00800000	Yes

取得できる応答値は上記の値を足し合わせた値です。
ただし、未接続または通信エラーの場合は、全ビットが0となります。

注意

- ◆ 記載のない応答内容は予約です。
- ◆ 未接続または通信エラーの場合は、それ以外のステータスの内容は無視されます。

5.2.4 ステータス履歴の保存

下記にステータス履歴をテキストファイルとして保存する手順について説明します。

1. [プリンターステータス]画面の[保存(S)...]ボタンをクリックします。
2. [名前を付けて保存]ダイアログでファイルを保存する場所とファイル名を指定します。
3. [名前を付けて保存]ダイアログの[保存(S)]ボタンをクリックします。

5.2.5 ハードウェアの表示

[プリンター情報]画面から[ハードウェア]タブを選択し、下記の画面を表示します。



図 5-4 [ハードウェア]画面

項目	説明
ハードウェア	プリンター本体から取得した下記ハードウェア情報を表示します。 <ul style="list-style-type: none">・ファームウェアバージョン(メイン)・ファームウェアバージョン(ブート)・モデル名
再読込(R)	プリンターからハードウェア情報を再取得します。

5.2.6 メンテナンスカウンターの表示

[プリンター情報]画面から[メンテナンスカウンター]タブを選択し、下記の画面を表示します。



図 5-5 [メンテナンスカウンター]画面

項目	説明
メンテナンスカウンター	メンテナンスカウンターの値を表示します。 <ul style="list-style-type: none">・紙送りドットライン数(単位:dot)・サーマルヘッド通電回数(単位:dot)・紙送りドットライン数(積算)(単位:dot)・サーマルヘッド通電回数(積算)(単位:dot)
再読込(R)	プリンターからメンテナンスカウンターの値を再取得します。

5.3 メモリスイッチ

メモリスイッチを設定します。

注意

◆下の項目を変更した場合、プリンターの再起動を行ってください。
ただし、本設定を変更した場合、プリンタードライバーとの接続が行えなくなる可能性があります。

➤ MS1-1: インターフェイス選択 (Interface)

5.3.1 メモリスイッチの設定

ツールパネルの[メモリスイッチ]を選択し、下記の画面を表示します。

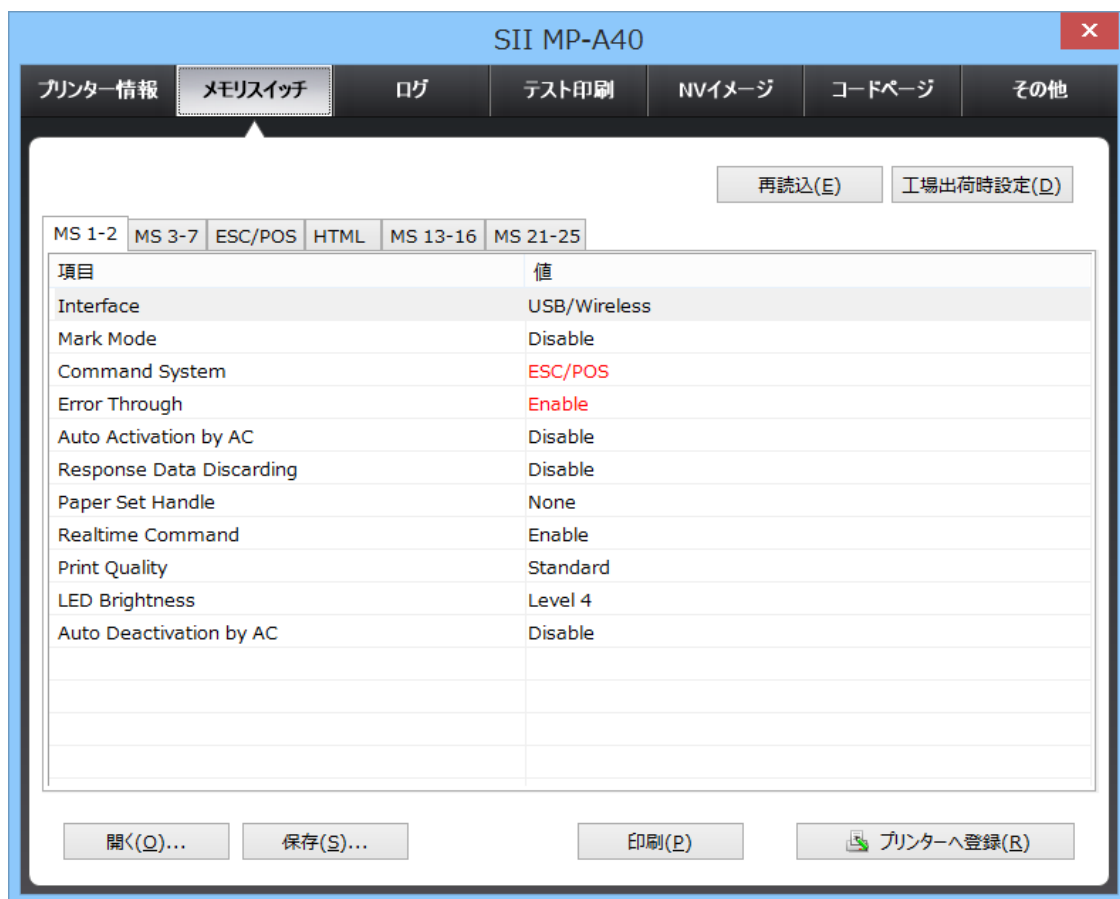


図 5-6 [メモリスイッチ]画面

項目	説明
再読込(E)	プリンターの現在の設定内容を読み込んで、設定を表示します。 現在編集中的の設定内容は失われます。
工場出荷時設定(D)	工場出荷時の設定に戻します。現在編集中的の設定内容は失われます。※1 ※2
[MS]タブ	メモリスイッチの表示項目を切り替えます。
項目	メモリスイッチ機能の項目名を表示します。
値	プリンターまたはメモリスイッチファイルから取得したメモリスイッチの値を表示します。 値をダブルクリックして編集モードにし、ドロップダウンから値を選択するかエディットボックスに値を入力します。※2 ※3 読み込んだ値を変更した場合、赤字で表示します。 メモリスイッチ起動時にプリンターから情報が取得できなかった場合、「 -- 」が表示され、編集はできません。
開く(O)...	保存したメモリスイッチファイル(*.sms)を読み込んで、設定を表示します。 ※1
保存(S)...	[名前を付けて保存]ダイアログで保存先とファイル名を指定し、現在の画面上の設定内容をメモリスイッチファイル(*.sms)として保存します。※1 デフォルトの保存先はルートフォルダーです。
印刷(P)	プリンターの現在の設定内容を印刷します。※1
プリンターへ登録(R)	表示している内容をプリンターに送信し、プリンターの設定を変更します。 ※1 ※4

※1: プリンターから値を取得していない場合、操作できません。

※2: [プリンターへ登録(R)]ボタンをクリックするまでは、設定は反映されません。

※3: 範囲外の値は、自動的に範囲内に丸め込みされます。

※4: プリンターから取得した値から変更がない場合、操作できません。

5.3.2 メモリスイッチ設定のプリンター登録

下記にメモリスイッチの設定をプリンターに登録する手順について説明します。

設定を変更する場合の登録手順

1. [MS]タブを切り替えて、設定を変更するメモリスイッチの項目を表示します。
2. 設定を変更するメモリスイッチの値を選択、または入力します。
3. [プリンターへ登録(R)]ボタンをクリックします。

メモリスイッチファイルから読み込む場合の登録手順

1. [メモリスイッチ]画面の[開く(O)...]ボタンをクリックします。
2. [開く]ダイアログから、設定内容が保存されているメモリスイッチファイルを指定します。
3. [開く]ダイアログの[開く(O)]ボタンをクリックします。
4. [プリンターへ登録(R)]ボタンをクリックします。

工場出荷時の設定内容に戻す場合の登録手順

1. [工場出荷時設定(D)]ボタンをクリックします。
2. 確認画面が表示されるので[はい]ボタンをクリックします。
3. [プリンターへ登録(R)]ボタンをクリックします。

5.3.3 メモリスイッチ設定内容の保存

下記にメモリスイッチの設定内容をメモリスイッチファイルとして保存する手順について説明します。

1. [メモリスイッチ]画面の[保存(S)...]ボタンをクリックします。
2. [名前を付けて保存]ダイアログでメモリスイッチファイルを保存する場所とファイル名を指定します。
3. [名前を付けて保存]ダイアログの[保存(S)]ボタンをクリックします。

5.4 ログ

プリンタードライバーのログ出力を設定します。

注意

- ◆ログ出力を有効にした場合は、プリンタードライバーの動作が重くなる恐れがありますので不要なログ出力は避けてください。
- ◆ログファイルを開いた状態でのログの出力内容については保証しません。

5.4.1 ログ出力の設定

ツールパネルの[ログ]を選択し、下記の画面を表示します。



図 5-7 [ログ]画面

項目	説明 (“ ”: 初期値)
ログ出力(L)	<p>ログ出力を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有効 ・<u>無効</u> <p>「有効」を選択した場合は、保存期間を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>1日分</u> ・3日分 ・10日分 ・30日分 ・90日分 <p>保存期間を過ぎたログは、ログの出力時に消去されます。^{※1} ログファイル(印刷ジョブ情報を除く)の最大サイズは32MBです。^{※2}</p>
出力内容	ログ出力の内容について設定します。
エラー(E)	<p>ログにエラーを出力するか選択します。^{※3}</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>有効</u> ・無効
警告(W)	<p>ログに警告を出力するか選択します。^{※3}</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>有効</u> ・無効
情報(I)	<p>ログに情報を出力するか選択します。^{※3}</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>有効</u> ・無効
印刷ジョブ情報(D)	<p>印刷ジョブ情報を出力するか選択します。^{※3 ※4}</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有効 ・<u>無効</u> <p>「有効」の場合は、印刷時にプリンターに送信したデータが、ジョブごとにファイルに保存されます。</p>
ログ出力先	ログの出力先を設定します。 ^{※3 ※5}
ログ(G)	<p>ログの出力先、及びファイル名は下記です。</p> <p>出力先: <Windowsがインストールされているドライブ>:\ProgramData\SII\Logs\</p> <p>ファイル名: <yyyyMMdd>.log</p> <p>ただし、ファイルサイズが32MBを超えた場合、ファイル名を <yyyyMMdd_hhmmss>.logに変更し、新たに<yyyyMMdd>.logを作成します。^{※6}</p>
印刷ジョブ情報(O)	<p>印刷ジョブ情報を保存するフォルダーの作成場所を入力するか、[印刷ジョブ情報(O)]の[参照(R)...]ボタンから[フォルダーの参照]ダイアログで出力先を指定します。^{※7}</p> <p>印刷ジョブ情報は1ジョブ1ファイル、ファイル名はファイルが作成された時間<hhmm_ss(fff)>で、印刷ジョブファイル(*.prn)として保存されます。^{※6}</p> <p>保存された印刷ジョブ情報は、日付ごとのフォルダー(フォルダー名<yyyyMMdd>)に保存されます。^{※6}</p>
参照(R)...	<p>印刷ジョブ情報を保存するフォルダーの作成場所を指定します。</p> <p>指定した内容は[印刷ジョブ情報(O)]に表示されます。^{※7 ※8 ※9}</p>
適用(A)	ログの出力内容や出力先を確定し、ログ出力を開始します。

- ※1: 実際の保存期間は、最大一日分長くなる可能性があります。
- ※2: 32MBを超える場合は、新たなログファイルが生成され、保存日数まで保存されます。
- ※3: [ログ出力(L)]が「無効」の場合は、操作できません。
- ※4: プリンター共有環境で本機能を使用する場合は、クライアント側からの設定はできません。
- ※5: ログの書き込みには指定したフォルダーまたはファイルへの書き込み権限が必要です。
- ※6: ファイル名及びフォルダー名に使用される記号の意味は下記です。
- yyyy : 年
- MM : 月
- dd : 日
- hh : 時
- mm : 分
- ss(fff): 秒(少数点以下3桁までの5桁)
- ※7: [ログ出力(L)]が「無効」の場合、または[印刷ジョブ情報(O)]で「無効」を選択している場合は、操作できません。
- ※8: 複数ユーザーでログを利用する場合は、すべてのユーザーがアクセスできるフォルダーを指定してください。
- ※9: 設定できるパスの長さは最大260文字です。

5.4.2 ログ出力の設定の変更

下記にログ出力の設定を変更する手順について説明します。

1. [ログ出力(L)]で「有効」を選択し、保存期間を選択します。
2. [出力内容]の各項目を選択します。
3. [印刷ジョブ情報(O)]に各ログの出力先を入力します。
4. [適用(A)]ボタンをクリックします。

5.4.3 ログファイルの内容

ログファイルに出力される内容について説明します。

[MM/dd hh:mm(ss.fff)] [ログ種別] [エラー情報] : [モジュール] ログ内容

出力される時間情報の記号の意味は下記の通りです。

記号	意味
MM	月
dd	日
hh	時
mm	分
ss.fff	秒(少数点以下3桁までの5桁)

出力されるログの種別は下記の通りです。

ログ種別	レベル	内容	備考
I	情報	正常動作ログ	入出力データなど
W	警告	情報、エラーのいずれにも該当しない内容のログ	-
E	エラー	異常検出ログ	通信異常など

5.5 テスト印刷

任意の内容でテスト印刷を実行します。

5.5.1 テスト印刷の設定

ツールパネルの[テスト印刷]を選択し、下記の画面を表示します。

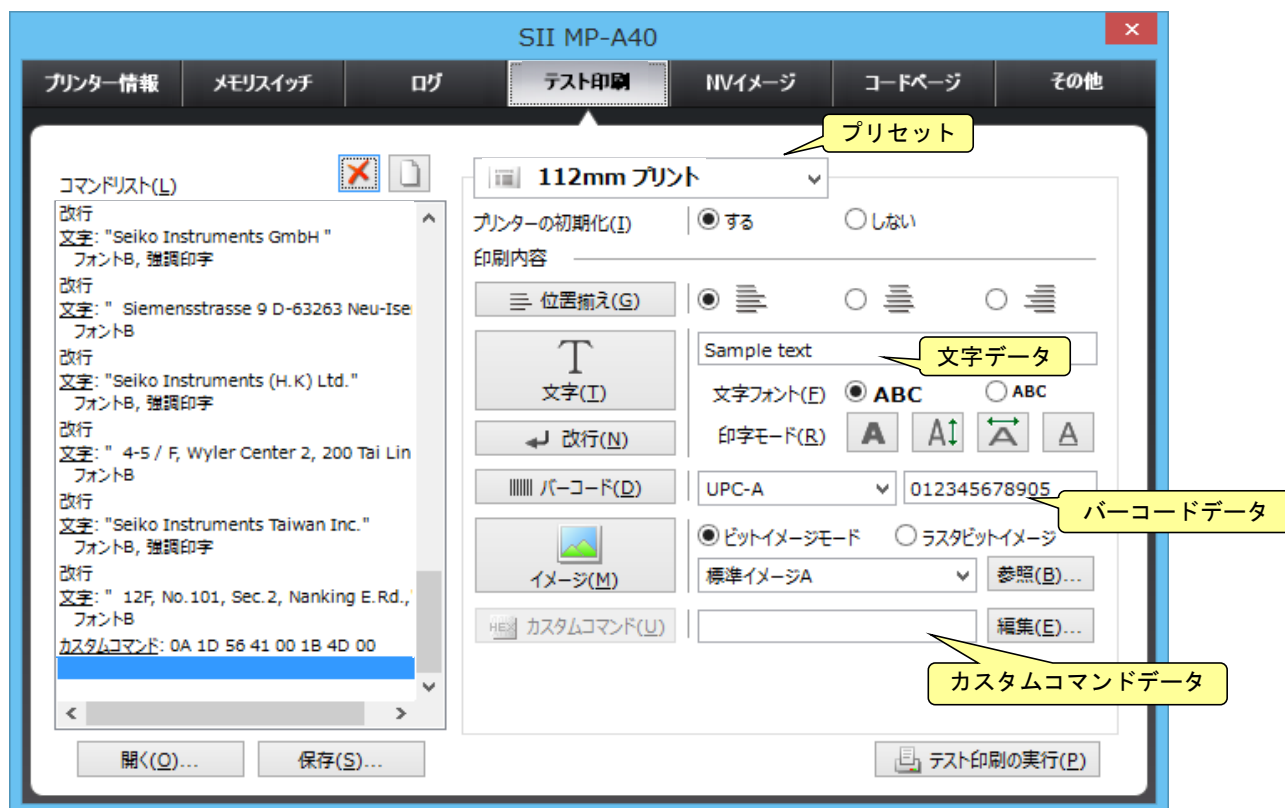











図 5-8 [テスト印刷] 画面

項目	説明 (“ ”: 初期値)
コマンドリスト(L)	[プリセット]から設定した内容やテスト印刷ファイルの内容をリストとして表示します。 [コマンドリスト(L)]は最大128行追加できます。 [コマンドリスト(L)]に追加されたテスト印刷コマンドは[テスト印刷の実行(P)]時にプリンターに送られます。※1
 削除	[コマンドリスト(L)]で選択中のテスト印刷コマンドを[コマンドリスト(L)]から削除します。※2 [コマンドリスト(L)]で末尾の空白行を選択している場合は、空白行のすぐ上の行のテスト印刷コマンドを削除します。
 新規作成	[コマンドリスト(L)]内のテスト印刷コマンドをすべてクリアします。※2
開く(O)...	保存したテスト印刷ファイル(*.stp)を指定して開き、その内容を[コマンドリスト(L)]に表示します。

項目	説明 (“ ”: 初期値)
保存(S)...	[コマンドリスト(L)]のテスト印刷コマンドをテスト印刷ファイル(*.stp)として保存します。 デフォルトの保存先はルートフォルダーです。
プリセット	予め登録されているテスト印刷内容を[コマンドリスト(L)]に表示します。※3 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>112mm プリント</u> ・ 80mm プリント ・ バーコード ・ カスタム
プリンターの初期化(I)	テスト印刷の開始時に、プリンターコマンド「プリンターの初期化」による初期化を行うか、初期化を行わないかを選択します。※4 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>する</u> ・ しない
印刷内容	テスト印刷の内容を設定します。
位置揃え(G)	文字、バーコード及びイメージを印刷する位置を[コマンドリスト(L)]に追加します。 位置揃えの設定は、次に位置揃えのテスト印刷コマンドが挿入されるまで有効です。 <ul style="list-style-type: none"> ・  <u>左揃え</u> ・  中央揃え ・  右揃え
文字(T)	[文字フォント(F)]や[印字モード(R)]とともに、「文字データ」に入力された文字を一括して[コマンドリスト(L)]に追加します。※5 ※6 ※7
文字データ	テスト印刷する文字列を入力します。 入力可能文字数は最大64文字です。
文字フォント(F)	フォントのサイズを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ABC <u>フォントA(24x12フォント)</u> ・ ABC フォントB(16x8フォント)
印字モード(R)	印字モードを設定します。 各ボタンは、1回クリックするごとに「オン」「オフ」の設定が切り替えられます。 「オフ」のときは、テスト印刷コマンド追加時に[コマンドリスト(L)]へ表示しません。 <ul style="list-style-type: none"> ・  強調印字 ・  縦倍角 ・  横倍角 ・  アンダーライン
改行(N)	[改行]のテスト印刷コマンドを、[コマンドリスト(L)]に追加します。 「文字データ」に文字が入力されている場合は、「文字データ」、[文字フォント(F)]、[印字モード(R)]のテスト印刷コマンドの後に[改行]のテスト印刷コマンドを追加します。

項目		説明 (“ ”: 初期値)
	バーコード(D)	バーコードの種類と、「バーコードデータ」に入力されたデータを一括して[コマンドリスト(L)]に追加します。※8
	バーコード種類	テスト印刷するバーコードの種類を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>UPC-A</u> ・ UPC-E ・ JAN13 (EAN13) ・ JAN8 (EAN8) ・ CODE39 ・ ITF ・ CODABAR ・ CODE128 ・ CODE93 ・ JAN13 (EAN13) add-on 2 ・ JAN13 (EAN13) add-on 5 ・ GS1 Databar Omni-directional ・ GS1 Databar Truncated ・ GS1 Databar Limited ・ GS1 Databar Expanded ・ QR Code Model-2 ・ PDF417 ・ Data Matrix ・ Maxi Code ・ GS1 Databar Stacked ・ GS1 Databar Stacked Omni-directional ・ GS1 Databar Expanded Stacked
	バーコードデータ	バーコード印刷するデータを入力します。※9 入力可能文字数は最大64文字です。※10
	イメージ(M)	[印刷方式]、[イメージ選択]の設定を一括して[コマンドリスト(L)]に追加します。
	印刷方式	イメージの印刷に使用するプリンターコマンドの種類を選択します。※11 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>ビットイメージモード</u> ・ ラスタビットイメージ
	イメージ選択	イメージの印刷に使用する画像データを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>標準イメージA</u> ・ 標準イメージB ・ ユーザー指定イメージ コンボボックスで「ユーザー指定イメージ」を選択した場合は、自動的に[開く]ダイアログが開き、使用するイメージを指定できます。
	参照(B)...	イメージの印刷に使用するユーザー指定イメージを[開く]ダイアログから指定します。イメージファイル(*.jpg、*.jpeg、*.bmp)が選択できます。※12
	カスタムコマンド(U)	「カスタムコマンドデータ」に入力されたプリンターコマンドを[コマンドリスト(L)]に追加します。※13
	カスタムコマンドデータ	カスタムコマンドを表示します。 入力には[編集(E)...]ボタンをクリックして表示されるバイナリエディターを使用します。

項目		説明 (“ ”: 初期値)
	編集(E)...	バイナリエディターを使ってプリンターコマンドを16進数で入力します。 入力したプリンターコマンドは「カスタムコマンドデータ」に表示されます。 指定可能バイト数は最大64バイトです。 バイナリエディターについては『3.4.8 バイナリエディターの使用方法』を参照してください。
	テスト印刷の実行(P)	[コマンドリスト(L)]上の全テスト印刷コマンドをプリンターに送信します。

- ※1: [コマンドリスト(L)]内の文字、バーコード、カスタムコマンドのテスト印刷コマンドをダブルクリックまたはスペースキーで選択すると、文字列、データが各項目のエディットボックスに入ります。
- ※2: [コマンドリスト(L)]が空白の場合は、操作できません。
- ※3: [プリセット]に「カスタム」以外を選択している場合、下記の操作により[プリセット]は「カスタム」に変更されます。
 - ・ 表示されている[コマンドリスト(L)]の内容を変更した場合
 - ・ [開く(O)]ボタンでテスト印刷ファイル(*.stp)を読み込んだ場合
- ※4: 「する」を選択した場合でも[コマンドリスト(L)]には表示されません。[テスト印刷の実行(P)]ボタン、[保存(S)...]ボタンをクリックした時の[プリンターの初期化(I)]の選択状態に従って、印刷データやテスト印刷ファイルの保存内容に反映されます。
- ※5: 「文字データ」が空白の場合は、操作できません。
- ※6: スタンダードモード選択時(通常時)は、1行分の行バッファが文字データであふれる(1行フル印字)場合か、プリンターコマンド「印字改行」等で印字条件が成立した場合は、印刷を実行します。上記条件を満たさないデータをプリンターに送信しても印刷は実行されません。
- ※7: 漢字コード体系及び文字列のエンコードについては「7.2 デバイスフォント」を参照してください。
- ※8: 「バーコードデータ」が空白の場合は、操作できません。
- ※9: 入力するデータについては、「MP-A40シリーズ サーマルプリンタ技術説明書」のプリンターコマンド「バーコードの印字」、「QR Codeの印字」を参照してください。
- ※10: プリンターの仕様に合わないデータを入力すると正常に印刷できない場合がありますので適切なデータを入力してください。プリンターの仕様については、「MP-A40シリーズ サーマルプリンタ技術説明書」を参照してください。「バーコードデータ」はバーコードフォントで使用するデータの入力方法とは異なります。
- ※11: [イメージ選択]で「標準イメージB」を選択した場合は、[印刷方式]は無視されます。
- ※12: [参照(B)...]ボタンをクリックし、イメージファイルを選択した場合は、[イメージ選択]は「ユーザー指定イメージ」に変更されます。
- ※13: 「カスタムコマンドデータ」が空白の場合は、操作できません。


5.5.2 テスト印刷の実行


下記にテスト印刷の実行手順について説明します。

[プリセット]を利用する場合の印刷手順

1. テスト印刷の内容を[プリセット]から設定します。
2. [テスト印刷の実行(P)]ボタンをクリックします。

テスト印刷コマンドを指定する場合の印刷手順(文字の印刷)

1.  [新規作成]ボタンをクリックします。
2. [プリンターの初期化(I)]で初期化を行うか、初期化を行わないかを選択します。
3. ラジオボタンで左揃え、中央揃え、右揃えのいずれかの印刷位置を選択し[位置揃え(G)]ボタンをクリックします。
4. 「文字データ」に印刷する文字を入力します。
5. [文字フォント(F)]、[印字モード(R)]を選択し[改行(N)]ボタンをクリックします。
6. 必要に応じて[バーコード(D)]や[カスタムコマンド(U)]等のテスト印刷コマンドを[コマンドリスト(L)]に追加します。

7. 削除したいテスト印刷コマンド(テスト印刷コマンドの名称と設定値)がある場合は、[コマンドリスト(L)]で対象のテスト印刷コマンド行を選択し  [削除]ボタンをクリックします。
8. [テスト印刷の実行(P)]ボタンをクリックします。

テスト印刷ファイルから読み込む場合の印刷手順

1. [テスト印刷]画面の[開く(O)...]ボタンをクリックします。
2. [開く]ダイアログからテスト印刷コマンドが保存されているテスト印刷ファイルを指定します。
3. [開く]ダイアログの[開く(O)]ボタンをクリックします。
4. [テスト印刷の実行(P)]ボタンをクリックします。

5.5.3 テスト印刷ファイルの保存

下記にテスト印刷情報をテスト印刷ファイルとして保存する手順について説明します。

1. [テスト印刷]画面の[保存(S)...]ボタンをクリックします。
2. [名前を付けて保存]ダイアログでテスト印刷ファイルを保存する場所とファイル名を指定します。
3. [名前を付けて保存]ダイアログの[保存(S)]ボタンをクリックします。

5.6 NVイメージ

ロゴまたはウォーターマークで使用するイメージデータの編集、登録、または登録されているNVイメージを管理します。

参考



- NVイメージとは、プリンターのNVメモリ（不揮発性メモリ）に登録されたイメージデータのことで、プリンターの電源を切ってもこのデータは保持されます。

5.6.1 NVイメージの設定

ツールパネルの[NVイメージ]を選択し、下記の画面を表示します。



図 5-9 [NVイメージ]画面

項目	説明
プレビュー	[イメージデータリスト(I)]で選択中のイメージデータを表示します。
 前へ	[プレビュー]に表示するイメージデータを1つ前の画像に切り替えます。 ^{※1}
 次へ	[プレビュー]に表示するイメージデータを次の画像に切り替えます。 ^{※1}
ファイル名	[プレビュー]に表示中のイメージデータのファイル名を表示します。
開く(O)...	保存されているイメージデータファイル(*.snv)から、設定と画像を読み込んで表示します。
保存(S)...	[イメージデータリスト(I)]に追加されたイメージデータの設定と画像をイメージデータファイル(*.snv)として保存します。 ^{※2} デフォルトの保存先はルートフォルダーです。

項目	説明
メモリ残量	メモリの残量を表示します。 メモリを最適化します。
最適化前	最適化前のメモリ残量を表示します。
最適化後	最適化後のメモリ残量を表示します。
最適化(D)	プリンター本体メモリのユーザー領域を再配置して空きメモリ領域を確保します。

※1: [イメージデータリスト(I)]にイメージデータが2つ以上ある場合のみ操作できます。

※2: [イメージデータリスト(I)]にイメージデータがない場合は、操作できません。








5.6.2 イメージ登録の設定

[NVイメージ]画面から[イメージ登録]タブを選択し、下記の画面を表示します。



図 5-10 [イメージ登録]画面

項目	説明 (“ ”: 初期値)
イメージデータリスト (I)	追加したイメージデータの一覧を表示します。 [イメージデータリスト(I)]に追加できるイメージデータは最大20個です。 NVイメージ起動時は前回終了時のものを復元します。
ファイル名	プリンターへ登録予定のイメージデータの管理用名称です。※1 [イメージデータリスト(I)]にイメージデータが追加される際に、自動的に名前が割り振られます。
キーコード	プリンターへイメージデータを登録する際に使用するイメージデータの番号です。 プリンター本体に登録のないキーコードが自動的に割り当てられます。割り当てられたキーコードを変更する場合は、[イメージデータリスト(I)]でイメージデータを選択し、エディットボックスにキーコードを数字で入力します。 ・ 00 ~ 99 (自動的に割り振られたキーコード)※2
サイズ	イメージデータのデータサイズを表示します。※1

項目		説明 (“ ”: 初期値)
	イメージデータを 開く...	イメージデータのファイルを指定して[イメージデータリスト(I)]に追加します。 イメージファイル(*.jpg, *.jpeg, *.bmp)が選択できます。※3
	イメージデータの 複製	[イメージデータリスト(I)]で選択中のすべてのイメージデータを複製し、別のファイル名を付けて[イメージデータリスト(I)]に追加します。※4
	イメージデータの 削除	[イメージデータリスト(I)]で選択中のすべてのイメージデータを[イメージデータリスト(I)]から削除します。※4
	イメージデータの 印刷	[イメージデータリスト(I)]で選択中のすべてのイメージデータを印刷します。※4
プリンターへ登録(R)		[イメージデータリスト(I)]で選択中のすべてのイメージデータをプリンターへ登録します。 イメージデータの登録後は[メモリ残量]も更新します。 登録しようとしているイメージデータのキーコードがすでに登録済みの場合は、上書き確認のメッセージが表示されます。※4
NVイメージリスト(L)		プリンターに登録済みのNVイメージの一覧を表示します。※5
	キーコード	プリンターに登録済みのNVイメージのキーコードを表示します。
	再読込	プリンターに登録済みのNVイメージとメモリ残量を再取得します。
	削除	[NVイメージリスト(L)]で選択中のすべてのNVイメージをプリンターから削除します。※6 イメージの削除後は[メモリ残量]も更新されます。
	印刷	[NVイメージリスト(L)]で選択中のすべてのNVイメージを印刷します。※6

※1: 編集はできません。

※2: イメージデータを削除した場合は、そのイメージデータのキーコードは欠番になり自動的には割り振られません。ただし、キーコードが99まで使用された場合は、欠番のうち値が小さいものから順に番号が割り振られます。

※3: 指定したイメージデータのサイズは、読み込み時に112mm用紙(104mm印字幅)にフィットするように変更されます。また、カラーの画像を指定した場合は、読み込み時にモノクロ画像に変換されます。

※4: [イメージデータリスト(I)]にイメージデータがない場合は、操作できません。

※5: NVイメージの情報がプリンターから取得できなかった場合は、リストの1行目に「 - 」が表示されます。

※6: [NVイメージリスト(L)]にNVイメージがない場合は、操作できません。

5.6.3 イメージ編集の設定

[NVイメージ]画面から[イメージ編集]タブを選択し、下記の画面を表示します。



図 5-11 [イメージ編集]画面

項目	説明 (“ ”: 初期値)
サイズ変更(E)	選択中のイメージデータを拡大・縮小します。※ ¹
112mm用紙にフィット	112mm用紙幅(104mm印字幅)にフィットするようイメージデータのサイズを自動的に変更します。
縦横比を固定	縦横比を固定してイメージデータのサイズを変更します。
横 縦	スライダーコントロールでサイズを変更します。※ ² ※ ³ ・ 元画像の10 ~ 300% (dotの範囲は元画像のサイズにより異なります。 縦は最大8インチ(1624 dot)まで指定できます。)
% dot	選択中のイメージデータの縮尺率(%), 及びdotでの換算値を表示します。
回転(R)	選択された方向及び角度でイメージデータを回転させます。※ ¹ ・ <u>なし</u> ・ 右に90度 ・ 180度 ・ 左に90度 [112mm用紙にフィット]のチェックボックスがオンのときに現在の角度からイメージを90度回転させた場合は、[112mm用紙にフィット]のチェックボックスはオフに変更されます。
ディザリング(H)	ディザリングのパターンを選択します。※ ¹ ・ 2x2 ・ <u>4x4</u> ・ 6x6 ・ 8x8 ・ 誤差拡散

項目	説明 (“ ”: 初期値)
明るさ(L)	イメージデータの明るさを設定します。※1 ※3 ・ -100 ~ 100 (0)
コントラスト(C)	イメージデータのコントラストを設定します。※1 ※3 ・ -100 ~ 100 (0) -100に設定した場合は、画像全面が均一なパターンになります。
印刷(P)	編集中のイメージデータを印刷します。※1

※1: [イメージデータリスト(I)]にイメージデータがない場合は、操作できません。


※2: [縦横比を固定]のチェックボックスがオンの場合は、[縦]のスライダーは操作できません。

※3: マウスでスライダーを操作した場合は、マウスの左ボタンを離すタイミングで設定が[プレビュー]に反映されます。キーボードでのスライダー操作及び左右送りボタンで操作した場合は、1回のクリックごとに設定が[プレビュー]に反映されます。


5.6.4 NVイメージの登録

下記にNVイメージを登録する手順について説明します。

イメージデータのファイルを指定する場合の登録手順

1. [イメージ登録]画面の  [イメージデータを開く...]ボタンをクリックします。
2. [開く]ダイアログから登録するイメージデータのファイルを指定します。
3. [開く]ダイアログの[開く(O)]ボタンをクリックします。
4. 追加されたイメージを[イメージデータリスト(I)]で選択します。
5. [イメージ登録]画面の[プリンターへ登録(R)]ボタンをクリックします。

イメージデータを複製する場合の登録手順

1. [イメージデータリスト(I)]で複製するイメージを選択し[イメージ登録]画面の  [イメージデータの複製]ボタンをクリックします。
2. 複製されたイメージデータを[イメージデータリスト(I)]で選択します。
3. [イメージ登録]画面の[プリンターへ登録(R)]ボタンをクリックします。

イメージデータファイルから設定と画像を読み込む場合の登録手順

1. [NVイメージ]画面の[開く(O)...]ボタンをクリックします。
2. [開く]ダイアログから、イメージデータの設定と画像が保存されているイメージデータファイルを指定します。
3. [開く]ダイアログの[開く(O)...]ボタンをクリックします。
4. 読み込まれたイメージデータを[イメージデータリスト(I)]で選択します。
5. [イメージ登録]画面の[プリンターへ登録(R)]ボタンをクリックします。

5.6.5 イメージデータの編集

下記にイメージデータを編集する手順について説明します。

1. [イメージ登録]画面の[イメージデータリスト(I)]から編集するイメージデータを選択します。
2. [イメージ編集]タブを選択します。
3. [イメージ編集]タブで、サイズやイメージデータの回転、明るさ等を変更します。

5.6.6 イメージデータの設定と画像の保存

下記にイメージデータ設定と画像をイメージデータファイルとして保存する手順について説明します。

1. [NVイメージ]画面の[保存(S)...]ボタンをクリックします。
2. [名前を付けて保存]ダイアログでイメージデータファイルを保存する場所とファイル名を指定します。
3. [名前を付けて保存]ダイアログの[保存(S)]ボタンをクリックします。

5.7 コードページ

ユーザーが登録できるフォントデータを編集、登録、または登録されているコードページを管理します。

参考

- コードページ



コードページとは、各言語別にまとめられたデバイスフォントとして使用する文字セットです。本ツールではユーザーがコードページを新規に作成し、編集することもできます。

5.7.1 コードページの設定

ツールパネルの[コードページ]を選択し、下記の画面を表示します。



図 5-12 [コードページ]画面

項目	説明 (“ ”: 初期値)
全体ビュー	[フォントデータリスト(F)]で選択中のフォントデータを表示します。 マウスオーバーすると枠内のフォントの拡大イメージを表示します。 選択中の画像の[サイズ]及び[タイプ]により全体ビューの表示状態は変化します。
サイズ	[フォントデータリスト(F)]で選択中のフォントデータのサイズを表示、選択します。 ・ <u>24x12</u> ・ 16x8 設定を変更すると[全体ビュー][キャラクタービュー][フォントデータリスト(F)]に変更が反映されます。
タイプ	[フォントデータリスト(F)]で選択中のフォントデータのタイプを表示、選択します。 ・ <u>標準文字</u> ・ 国際文字 設定を変更すると[全体ビュー][フォントデータリスト(F)]に変更が反映されます。
 前へ	[全体ビュー]に表示するフォントデータを1つ前のページに切り替えます。 ※1
 次へ	[全体ビュー]に表示するフォントデータを次のページに切り替えます。※1
ファイル名	[全体ビュー]に表示中のフォントデータのファイル名を表示します。
開く(O)...	保存されているフォントデータファイル(*.scp)を読み込んで表示します。
保存(S)...	[フォントデータリスト(F)]に追加されたフォントデータの設定と画像を、フォントデータファイル(*.scp)として保存します。※2 デフォルトの保存先はルートフォルダーです。
メモリ残量	メモリの残量を表示します。 メモリを最適化します。
最適化前	最適化前のメモリ残量を表示します。
最適化後	最適化後のメモリ残量を表示します。
最適化(D)	プリンター本体のメモリを再配置して空きメモリ領域を確保します。

※1: [フォントデータリスト(F)]にフォントデータが複数ある場合のみ操作できます。

※2: [フォントデータリスト(F)]にフォントデータがない場合は、操作できません。







5.7.2 コードページ登録の設定



[コードページ]画面から[コードページ登録]タブを選択し、下記の画面を表示します。



図 5-13 [コードページ登録]画面

項目	説明 (“ ”: 初期値)
フォントデータリスト(F)	プロジェクトに追加したフォントデータの一覧を表示します。 [フォントデータリスト(F)]に追加できるフォントデータは最大60個です。 コードページツール起動時は前回終了時のものを復元します。 [フォントデータリスト(F)]ではフォントデータの複数選択はできません。
ファイル名	プリンターへ登録予定のフォントデータの管理用名称です。 ^{※1} [フォントデータリスト(F)]にフォントデータが追加される際に、自動的に名前が割り振られます。
サイズ	フォントデータのサイズを選択します。 ・ <u>24x12</u> ・ 16x8 設定を変更すると[全体ビュー][キャラクタービュー]に変更が反映されます。
タイプ	コードページのタイプを選択します。 ・ <u>標準文字</u> ・ 国際文字 設定を変更すると[全体ビュー]に変更が反映されます。

項目	説明（“ ”: 初期値）
フォント名/国名	<p>[タイプ]が「標準文字」の場合は、フォント名を半角英数記号で入力します。入力可能文字数は最大64文字です。</p> <p>[タイプ]が「国際文字」の場合は、国名を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>アメリカ(USA)</u> ・ フランス(France) ・ ドイツ(Germany) ・ イギリス(United Kingdom) ・ デンマーク I (Denmark I) ・ スウェーデン(Sweden) ・ イタリア(Italy) ・ スペイン I (Spain I) ・ 日本(Japan) ・ ノルウェー(Norway) ・ デンマーク II (Denmark II) ・ スペイン II (Spain II) ・ ラテンアメリカ(Latin America) ・ アラビア(Arabia)
 フォントデータの 新規作成	<p>フォントデータを新規に作成します。</p> <p>全体ビューの表示がクリアされて白紙状態になり[フォントデータリスト(F)]に新しいファイル名のフォントデータが追加されます。</p>
 フォントデータを 開く...	<p>フォントデータのファイルを指定して[フォントデータリスト(F)]に追加します。</p> <p>横16文字×縦14文字の*.bmp、*.binが選択できます。※2</p>
 フォントデータの 複製	<p>[フォントデータリスト(F)]で選択中のフォントデータを複製し、別のファイル名を付けて[フォントデータリスト(F)]に追加します。※3</p> <p>サイズ、タイプ、フォント名/国名も複製されます。</p>
 フォントデータの 削除	<p>[フォントデータリスト(F)]で選択中のフォントデータを削除します。※3</p>
 フォントデータの 印刷	<p>[フォントデータリスト(F)]で選択中のフォントデータを印刷します。※3</p>
プリンターへ登録(R)	<p>[フォントデータリスト(F)]で選択中のコードページをプリンターへ登録します。※4</p> <p>登録しようとしているコードページがすでに登録済みの場合は、上書き確認のメッセージが表示されます。</p> <p>コードページの登録後は[メモリ残量]も更新されます。</p>
コードページリスト(L)	<p>プリンターに登録済みのコードページを表示します。</p> <p>「標準文字」の場合は、サイズ、フォント名を表示し、「国際文字」の場合は、サイズ、国名を表示します。</p>
サイズ	<p>プリンターに登録済みのコードページのサイズを表示します。</p>
フォント名/国名	<p>プリンターに登録済みのコードページのフォント名または国名を表示します。</p>
 再読込	<p>プリンターに登録されているコードページとメモリ残量を再取得します。</p>

項目	説明 (“ ”: 初期値)
 削除	[コードページリスト(L)]で選択中のコードページをプリンターから削除します。※5 コードページの削除後は[メモリ残量]も更新されます。
 印刷	[コードページリスト(L)]で選択中のコードページを印刷します。※5

※1: 編集はできません。

※2: 読み込んだフォントデータのファイルがバイナリ形式の場合は、サイズ、タイプを判別して[フォントデータリスト(F)]に反映されます。

読み込んだフォントデータのファイルがBMPファイルでカラーまたはグレースケール画像の場合は、読み込み時に白黒2値化されます。

読み込んだフォントデータが*.bin形式であり、かつフォントデータのサイズが異なる場合は、不足する分はNullデータとして読み込み空白表示となり、サイズより大きい部分は読み捨てられ表示されません。

※3: [フォントデータリスト(F)]にフォントデータがない場合は、操作できません。

※4: 国際文字を登録する場合は、同じサイズの標準文字を先に登録してください。

※5: [コードページリスト(L)]にコードページがない場合は、操作できません。

5.7.3 [キャラクタービュー]によるフォントデータの編集

[コードページ]画面から[キャラクタービュー]タブを選択し、下記の画面を表示します。

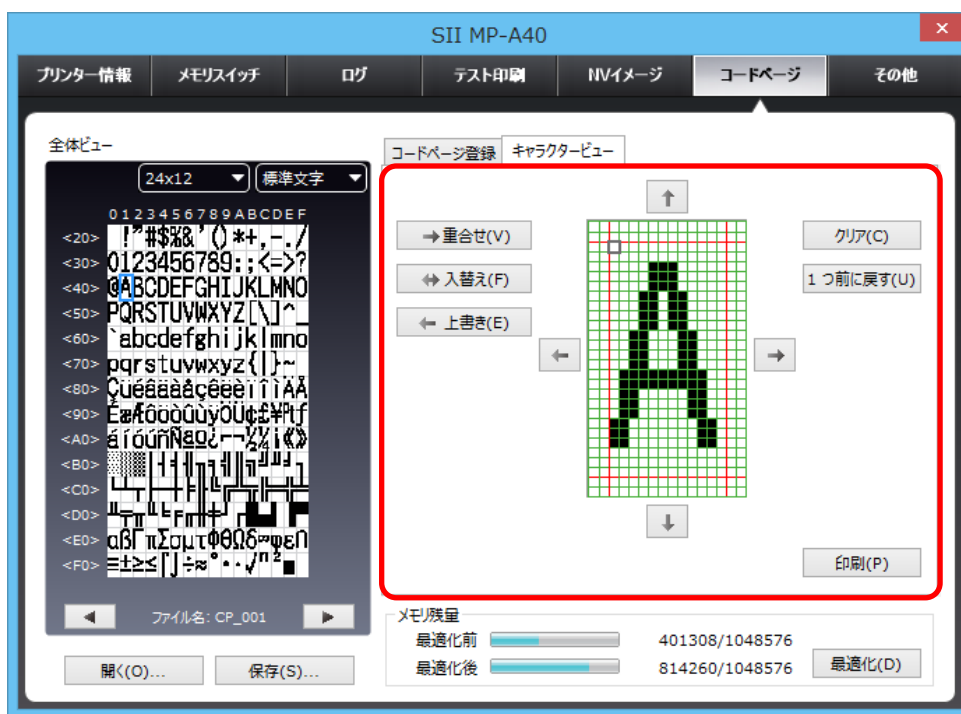



図 5-14 [キャラクタービュー]画面

項目	説明
キャラクタービュー	全体ビューに表示したフォントデータについて、文字ごとに編集できます。白塗りのマスの上でマウスクリック(左クリック)またはスペースキーを押下すると黒塗りになり、マウスクリックしたままドラッグすると線を引くことができます。黒塗りのマスの上で右クリックまたはDeleteキーを押下すると白塗りになり、右クリックのままドラッグすると連続して白塗りができます。
重合せ(V)	[全体ビュー]で選択中の文字を[キャラクタービュー]に重ね合わせます。 ※1 すでに[キャラクタービュー]にデータが入っている場合でも画像は消去せずに画像を重ねます。
入替え(F)	[全体ビュー]で選択中の文字と[キャラクタービュー]にある文字を入れ替えます。 ※1 ※2
上書き(E)	[キャラクタービュー]に表示している文字を、[全体ビュー]で選択中の文字に上書きします。 ※1 ※2 ボタンをクリックすると[キャラクタービュー]内のイメージはクリアされます。
	[キャラクタービュー]に表示している文字を、1回クリックするごとに1ドットずつクリックされたボタンの方向へシフトさせます。 [キャラクタービュー]からはみ出したデータは保持されません。
クリア(C)	[キャラクタービュー]内の描画をすべてクリアし、白紙状態にします。 ※3
1つ前に戻す(U)	[キャラクタービュー]内の状態を1つ前の状態に戻します。 1回のみ有効です。
印刷(P)	[キャラクタービュー]の内容を印刷します。 ※3

※1: [コードページ登録]画面の[フォントデータリスト(F)]にフォントデータがない場合や、国際文字の編集不可の場所を選択している場合は、操作できません。


※2: [キャラクタービュー]内の赤線より外側は[全体ビュー]には反映されません。

※3: [キャラクタービュー]に何も描画されていない場合は、操作できません。


5.7.4 コードページの登録

下記にコードページを登録する手順について説明します。

フォントデータを新規作成する場合の登録手順

1. [コードページ登録]画面の  [フォントデータの新規作成]ボタンをクリックします。
2. [フォントデータリスト(F)]に追加された新しいファイルの[サイズ]、[タイプ]、[フォント名/国名]を入力します。
3. [キャラクタービュー]タブを選択し、各アドレスの文字を編集します。
4. [コードページ登録]タブを選択し、[フォントデータリスト(F)]から文字を編集したファイルを選択します。
5. [コードページ登録]画面の[プリンターへ登録(R)]ボタンをクリックします。

フォントデータのファイルを指定する場合の登録手順

1.  [フォントデータを開く...]ボタンをクリックします。
2. [開く]ダイアログで登録するフォントデータのファイルを指定します。
3. [開く]ダイアログの[開く(O)...]ボタンをクリックします。
4. [フォントデータリスト(F)]に追加されたファイルの[サイズ]、[タイプ]、[フォント名/国名]を入力します。(フォントデータのファイルがバイナリデータ場合は、データ量でサイズとタイプが自動判別されます。)
5. [コードページ登録]画面の[フォントデータリスト(F)]から追加されたファイルを選択します。
6. [コードページ登録]画面の[プリンターへ登録(R)]ボタンをクリックします。

フォントデータファイルの設定と画像を読み込む場合の登録手順

1. [コードページ]画面の[開く(O)...]ボタンをクリックします。
2. [開く]ダイアログから保存されているフォントデータファイルを指定します。
3. [開く]ダイアログの[開く(O)...]ボタンをクリックします。
4. [コードページ登録]画面の[フォントデータリスト(F)]から読み込まれたファイルを選択します。
5. [コードページ登録]画面の[プリンターへ登録(R)]ボタンをクリックします。

5.7.5 フォントデータの編集

下記にフォントデータを編集する手順について説明します。

1. [コードページ登録]画面の[フォントデータリスト(F)]から編集するフォントデータを選択します。
2. [キャラクタービュー]タブを選択します。
3. [全体ビュー]から編集する文字を選択します。
4. [重合せ(V)]ボタンをクリックします。
5. 選択した文字を[キャラクタービュー]で編集します。
6. 編集した文字を登録する位置を[全体ビュー]で設定します。
7. [上書き(E)]ボタンをクリックします。

5.7.6 フォントデータの設定と画像の保存

下記にコードページ設定と画像をフォントデータファイルとして保存する手順について説明します。

1. [コードページ]画面の[保存(S)...]ボタンをクリックします。
2. [名前を付けて保存]ダイアログでフォントデータファイルを保存する場所とファイル名を指定します。
3. [名前を付けて保存]ダイアログの[保存(S)]ボタンをクリックします。

5.8 その他

プリンタードライバーの設定内容をファイルにエクスポート、またはエクスポートしたファイルをインポートします。

インポートまたはエクスポートされる設定内容は、プリンタードライバー設定情報(コントロールAフォント設定情報を含む)です。

5.8.1 その他の設定

ツールパネルの[その他]を選択し、下記の画面を表示します。

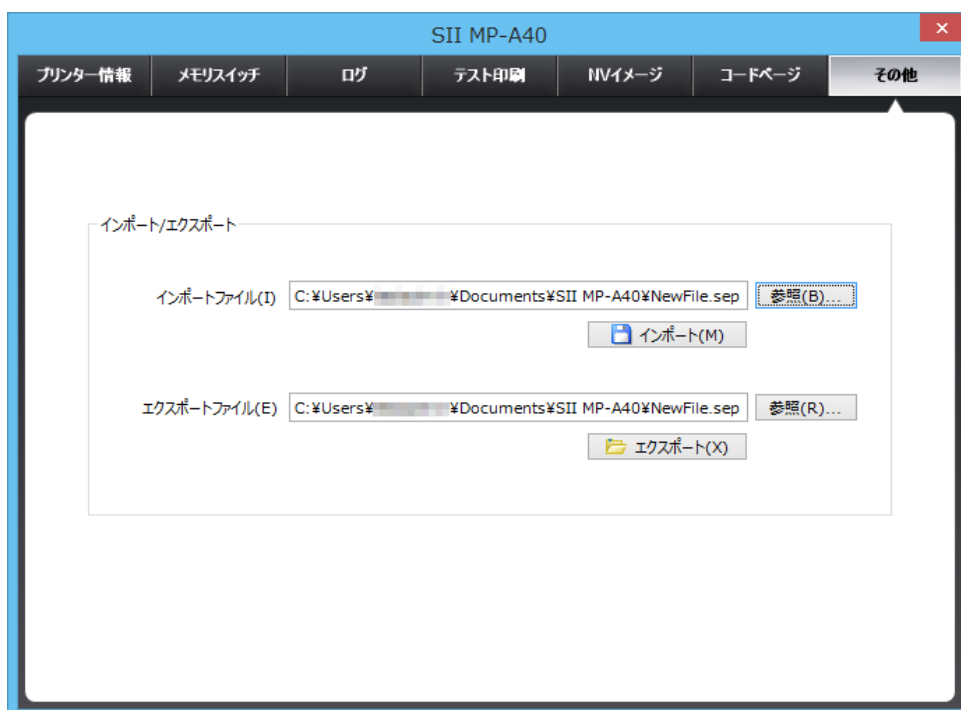


図 5-15 [その他]画面

項目	説明
インポートファイル(I)	保存したエクスポートファイル(*.sep)のファイル名を入力するか、または[インポートファイル(I)]の[参照(B)...]ボタンから[開く]ダイアログでインポートするファイルの保存先とファイル名を指定します。
参照(B)...	インポートするエクスポートファイルを、[開く]ダイアログから指定します。指定した内容は[インポートファイル(I)]に表示されます。
インポート(M)	[インポートファイル(I)]に指定されているファイルからプリンタードライバー設定情報(コントロールAフォント設定情報を含む)をインポートします。※ ¹
エクスポートファイル(E)	エクスポートファイルのファイル名を入力するか、または[エクスポートファイル(E)]の[参照(R)...]ボタンから[名前を付けて保存]ダイアログで保存先とファイル名を指定します。
参照(R)...	エクスポートファイルを保存する場所とファイル名を[名前を付けて保存]ダイアログから指定します。指定した内容は[エクスポートファイル(E)]に表示されます。

項目	説明
エクスポート(X)	[エクスポートファイル(E)]に指定されているファイルにプリンタードライバー設定情報(コントロールAフォント設定情報を含む)をエクスポートします。

※1: 異なる言語環境でエクスポートされたエクスポートファイルをインポートすることはできません。また、インポートファイルの[用紙サイズ]がカスタム用紙である場合は、反映されない場合があります。

5.8.2 設定のインポート

下記に設定をインポートする手順について説明します。

1. [インポートファイル(I)]の[参照(B)...]ボタンをクリックします。
2. [開く]ダイアログからインポートするファイルを選択します。
3. [開く]ダイアログの[開く(O)]ボタンをクリックします。
4. [インポート(M)]ボタンをクリックします。

5.8.3 設定のエクスポート

下記に設定をエクスポートする手順について説明します。

1. [エクスポートファイル]の[参照(R)...]ボタンをクリックします。
2. [名前を付けて保存]ダイアログでエクスポートファイルの保存先とファイル名を指定します。
3. [名前を付けて保存]ダイアログの[保存(S)]ボタンをクリックします。
4. [エクスポート(X)]ボタンをクリックします。

6章 用紙設定

6.1 概要

本章では用紙設定について説明します。

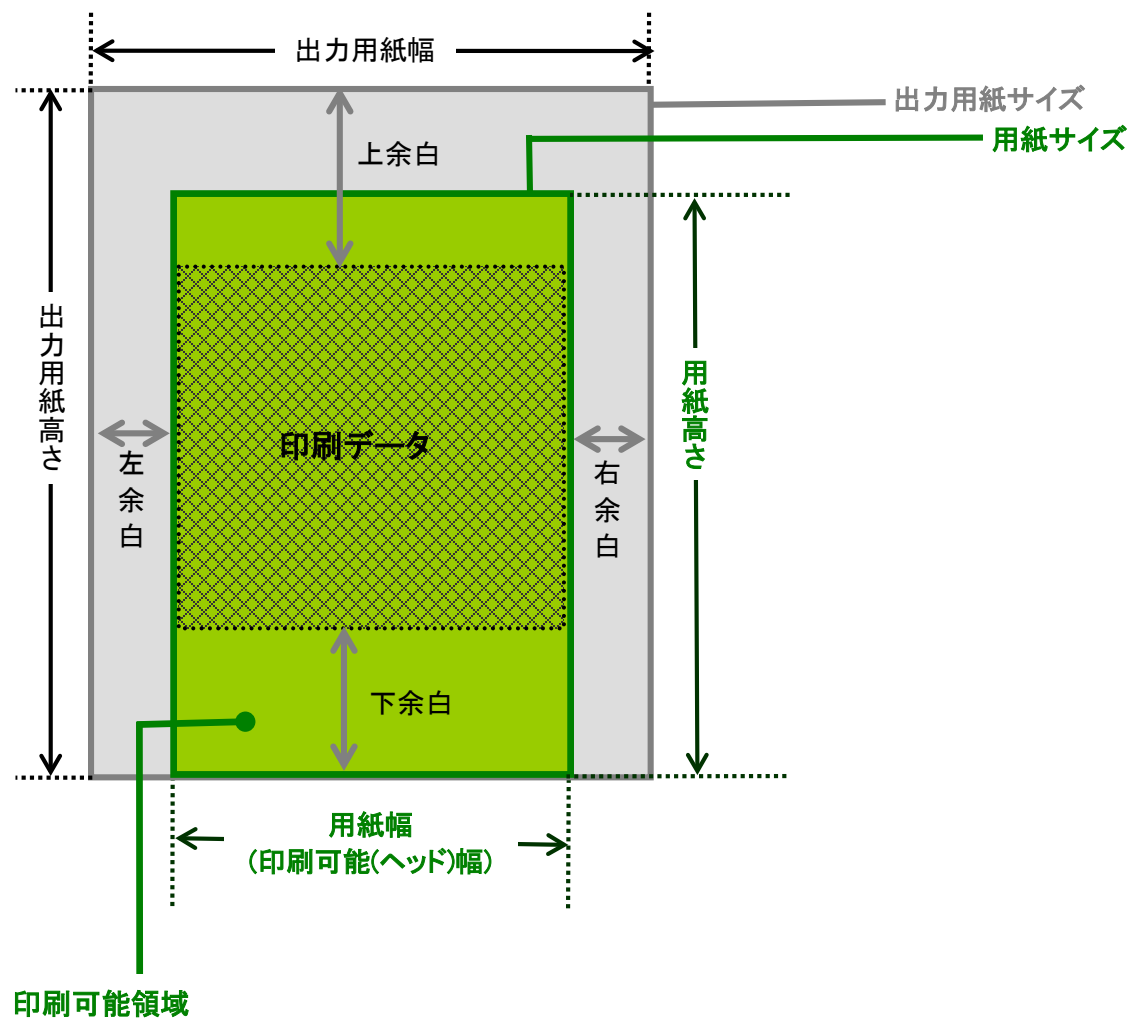
本章で使用する用語について下記に記載します。

用語	内容
高さ	紙排出方向を縦とした場合の縦方向のサイズ
幅	紙排出方向を縦とした場合の横方向のサイズ
出力用紙サイズ	実際に出力される用紙(ロール紙)サイズ
用紙サイズ	プリンタードライバー上で指定する、印刷可能領域のサイズ
標準用紙	インストール時に予め登録される用紙サイズ
カスタム用紙	ユーザーが新規に登録可能な用紙サイズ

注意

- ◆ カスタム用紙を登録する際に指定するサイズは、出力用紙サイズではなく用紙サイズ(印刷可能領域のサイズ)を指定します。
- ◆ A4、Letter以外の標準用紙の名称は「出力用紙の幅」となっていますが、用紙サイズと一致するものではありません。

下記に印刷イメージ図を示します。



※上記イメージは印刷イメージであり、印字終了位置は『3.4.6 用紙送り設定』の[カット位置まで紙送り(F)]の設定により異なります。

6.2 用紙サイズ

利用する出力用紙の幅ごとに利用できる用紙サイズの組合せは下記の通りです。

出力用紙幅	用紙種類	用紙名称	用紙サイズ(範囲)	
			幅	高さ
112 mm	標準用紙	112 x 297 mm	104 mm	297 mm
		112 x 1188 mm	104 mm	1188 mm
		A4	210 mm	297 mm
		Letter	215.9 mm	279.4 mm
	カスタム用紙	–	25.6 mm ~ 104 mm	30 mm ~ 3276 mm
105 mm	標準用紙	105 x 297 mm	97 mm	297 mm
		105 x 1188 mm	97 mm	1188 mm
		A4	210 mm	297 mm
		Letter	215.9 mm	279.4 mm
	カスタム用紙	–	25.6 mm ~ 97 mm	30 mm ~ 3276 mm
100 mm	標準用紙	100 x 297 mm	92 mm	297 mm
		100 x 1188 mm	92 mm	1188 mm
		A4	210 mm	297 mm
		Letter	215.9 mm	279.4 mm
	カスタム用紙	–	25.6 mm ~ 92 mm	30 mm ~ 3276 mm
80 mm	標準用紙	80 x 297 mm	72 mm	297 mm
		80 x 1188 mm	72 mm	1188 mm
		A4	210 mm	297 mm
		Letter	215.9 mm	279.4 mm
	カスタム用紙	–	25.6 mm ~ 72 mm	30 mm ~ 3276 mm

用紙サイズは下記を指定してください。

- 用紙幅 = 出力用紙幅 - 左余白 - 右余白
- 用紙高さ = 出力用紙高さ - ヘッドとティアバー間の紙送り

余白とヘッドとティアバー間の紙送りについては、『6.3 余白』を参照してください。

6.3 余白

下記に余白サイズについて説明します。

以降の説明では、『3.2.1 レイアウトの設定』の[印刷の向き(O)]が「縦」、『3.4.5 基本設定』の[方向(R)]が「順」となっていることを前提として説明します。

用紙幅方向の余白は下記の通りです。

左余白

4mmの左余白が発生します。

右余白

下記の右余白が発生します。

右余白 = 出力用紙幅 - 用紙幅 - 左余白

上余白

上余白とは、用紙サイズ内で印刷データよりも上の印刷データがない部分と、ヘッドとティアバー間の紙送りの長さを含めた部分です。

『3.4.6 用紙送り設定』の[カット位置まで紙送り(F)]の選択による動作は下記の通りです。

- [カット位置まで紙送り(F)]を「する」にした場合：
カット位置までの紙送りをします。多少の誤差が発生する場合があります。
- [カット位置まで紙送り(F)]を「しない」にした場合：
カット位置までの紙送りをしません。印刷下部が切れる場合があります。

下余白

下余白とは、用紙サイズ内で印刷データよりも下の印刷データがない部分です。

ただし、『3.4.5 基本設定』の[余白(M)]が下余白を最小にする設定であった場合は、印刷可能領域内に下余白が存在しない場合があります。

注意

- ◆ 『3.4.6 用紙送り設定』の[カット位置まで紙送り(F)]を「しない」に設定した場合、ヘッドとティアバー間の長さ分、印刷可能領域の内側で印刷が終了します。
- ◆ プリンターの用紙幅設定とプリンタードライバーの用紙サイズ幅が合致しない場合、印刷内容が崩れる場合があります。
- ◆ 用紙サイズの内容に対し用紙高さについてはプリンターの機構上、若干の誤差が生じる場合があります。
- ◆ マーク紙を利用する場合、利用できる用紙高さは下記の通りです。
* 用紙高さ < マーク間の距離 -16mm
マーク紙を利用する場合、プリンター側の最大余白サイズは『6.3 余白』の上余白、下余白と異なります。
- ◆ ロゴの印刷、紙送り、カット位置まで紙送り、カスタムコマンドによる印刷は、用紙サイズ内では実行されませんので、指定した用紙サイズより長く印刷される場合があります。

参考

- ユーザーが新規に用紙を登録する方法については、『6.4 カスタム用紙の登録方法』を参照してください。

6.4 カスタム用紙の登録方法

下記にカスタム用紙の登録手順の一例を示します。

1. [プリント サーバーのプロパティ]画面の[用紙]タブを選択します。
2. [新しい用紙を作成する(C)]のチェックボックスをオンにします。
3. [用紙名(N)]に用紙名を入力します。
4. [単位]の「メートル法(M)」を選択します。
5. [用紙サイズ]の[幅(W)]にカスタム用紙の用紙幅を入力します。
6. [用紙サイズ]の[高さ(H)]にカスタム用紙の用紙高さを入力します。
7. [用紙の保存(S)]ボタンをクリックします。



図 6-1 [プリント サーバーのプロパティ]画面

注意

- ◆ カスタム用紙の登録にはコンピューターの管理者権限が必要です。
- ◆ カスタム用紙は『6.2 用紙サイズ』の[用紙サイズ(範囲)]を考慮して登録してください。[用紙]上に表示されている用紙の中で『6.2 用紙サイズ』の[用紙サイズ(範囲)]に記載された内容に該当する用紙のみプリンタードライバーで利用できます。

7章 フォント

7.1 概要

本章ではフォント印刷機能について説明します。

プリンタードライバで扱うことのできるフォントの種類には下記の種類があります。

- ・ TrueTypeフォント : Windowsに搭載されているフォントです。
- ・ デバイスフォント : プリンターに搭載されているフォントです。
- ・ バーコードフォント : プリンターでバーコードを印刷するための特殊フォントです。
- ・ 2次元バーコードフォント : プリンターで2次元バーコードを印刷するための特殊フォントです。
- ・ コントロールフォント : 予め登録されているプリンターコマンドを利用するための特殊フォントです。
- ・ コントロールAフォント : ユーザーが登録したプリンターコマンドを利用するための特殊フォントです。

参考

- TrueTypeフォント
TrueTypeフォントでは、斜体など文字修飾やフォントサイズを自由に変更できます。また、ほぼ画面イメージ通りの印刷が可能です。
TrueTypeフォントの印刷はイメージデータとして印刷されます。Bluetooth接続を使用している場合で印刷データが多い場合は、プリンターとの通信に時間がかかるため印刷が遅くなる場合があります。

注意

- ◆ IPDフォントを使用する場合、以下の設定にしてください。
 - ・『3.2.1 レイアウトの設定』の[印刷の向き(O)] :「縦」
 - ・『3.4.5 基本設定』の[方向(R)] :「順」
 - ・『3.4.5 基本設定』の[縮小(E)] :「縮小しない」
 - ・『3.6.4 ウォーターマークの設定』の[イメージ(I)] :「なし」
- ◆ 特殊フォントは、プレビューや編集画面ではイメージとして表示されません。
- ◆ 特殊フォントを使用すると、指定した用紙サイズより長く印刷されることがあります。
- ◆ 1行の中にデバイスフォントとバーコードフォント、2次元バーコードフォントは並べて印刷できません。
- ◆ 1行の中にTrueTypeフォントとIPDフォントは並べて印刷できません。
- ◆ 1行の中にイメージとIPDフォントは並べて印刷できません。

7.2 デバイスフォント

デバイスフォントとは、プリンターに内蔵されているフォントセットです。プリンターの印刷性能通りの印刷品質を得られます。TrueTypeフォントよりも高速で印刷できます。

漢字コード体系は、使用している言語環境によって異なります。

Windows OS	システムロケール	漢字コード体系
日本語	日本語(日本)	シフトJISコード
	日本語(日本)以外	JISコード
日本語以外	日本語(日本)	シフトJISコード
	日本語(日本)以外	JISコード

文字列のエンコードは、[印刷設定ダイアログ] - [フォント]タブの[デバイスフォント設定]の選択によって異なります。

[デバイスフォント設定]の「文字コードテーブル(C)」が初期値の場合は、文字列のエンコードは、システムで現在有効になっているANSIコードページで行われます。

[デバイスフォント設定]の「文字コードテーブル(C)」が初期値以外の場合は、文字列のエンコードは、[デバイスフォント設定]で選択しているコードページで行われます。コードページの詳細は「3.5.4 デバイスフォントの設定」を参照してください。

注意

- ◆ 文字に斜体を指定しても反映されません。
- ◆ 文字にアンダーラインを指定した場合は、デバイスフォントのアンダーラインで印刷されるため、アンダーラインの位置や線種は固定です。

7.2.1 デバイスフォントの種類の選択

デバイスフォントの種類は下記の通りです。

フォント名	フォントサイズ	文字セット	説明
IPD Font A ^{※1}	8.5ポイント	欧文	24x12 標準フォント
	17ポイント		24x12 縦倍角フォント
IPD Font A Wide ^{※1}	8.5ポイント		24x12 横倍角フォント
	17ポイント		24x12 4倍角フォント
IPD Font B ^{※1}	5.5ポイント		16x8 標準フォント
	11.5ポイント		16x8 縦倍角フォント
IPD Font B Wide ^{※1}	5.5ポイント		16x8 横倍角フォント
	11.5ポイント		16x8 4倍角フォント

フォント名	フォントサイズ	文字セット	説明
IPD Font A Japanese※2	8.5ポイント	日本語	24x12 標準フォント
	17ポイント		24x12 縦倍角フォント
IPD Font A Wide Japanese※2	8.5ポイント		24x12 横倍角フォント
	17ポイント		24x12 4倍角フォント
IPD Font B Japanese※2	5.5ポイント		16x8 標準フォント
	11.5ポイント		16x8 縦倍角フォント
IPD Font B Wide Japanese※2	5.5ポイント		16x8 横倍角フォント
	11.5ポイント		16x8 4倍角フォント

※1: 日本語環境では表示されません。

※2: 日本語環境以外では表示されません。

7.2.2 デバイスフォントの印刷

デバイスフォントを印刷するには、汎用アプリケーションから印刷する、またはプログラミングによる印刷などの方法があります。

7.3 バーコードフォント

バーコードフォントとは、アプリケーション側でバーコードを生成しなくても、このフォントを指定することでバーコードを印刷できる特殊なフォントです。

バーコードフォントは、バーコードの種類や大きさを[印刷設定]で登録して使用します。プリンタードライバでは10種類(IPD Barcode1～10)の設定を登録できます。登録方法は『3.5.5 バーコードフォントの設定』を参照してください。

注意

- ◆ バーコード設定やデータの指定により印字幅以上のバーコードになってしまう場合は、正しく印刷されません。

7.3.1 バーコードフォントの種類の選択

バーコードのフォント名は下記の通りです。

フォント名	フォントサイズ	文字セット
IPD Barcode1	8.5ポイント	欧文
IPD Barcode2		
IPD Barcode3		
IPD Barcode4		
IPD Barcode5		
IPD Barcode6		
IPD Barcode7		
IPD Barcode8		
IPD Barcode9		
IPD Barcode10		

7.3.2 バーコードフォントの印刷

バーコードフォントを印刷するには、汎用アプリケーションから印刷する、またはプログラミングによる印刷などの方法があります。

バーコードフォントデータの入力条件は下記の通りです。使用可能なデータをASCII形式で入力してください。

種別	データ数	使用可能なデータ	備考
UPC-A	11 ～ 12文字	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	–
UPC-E	11 ～ 12文字	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	–
JAN13 (EAN13)	12 ～ 13文字	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	–
JAN8 (EAN8)	7 ～ 8文字	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	–
Code39	1文字以上	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	スタートコード及びストップコード('*')は自動で付加されます。
		'A' ～ 'Z' (0x41 ～ 0x54)	
		' ' (0x20)	
		'\$' (0x24)	
		'%' (0x25)	
		'+' (0x2B)	
		'-' (0x2D)	
		'.' (0x2E)	
		'/' (0x2F)	
ITF	2文字以上 (ただし偶数個)	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	偶数個のデータを指定してください。 奇数個のデータを指定した場合、正常に印刷されない場合があります。
CODABAR	1文字以上	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	スタートコード及びストップコード('A' ～ 'D')の設定は『3.5.5 バーコードフォントの設定』を参照してください。
		'\$' (0x24)	
		'+' (0x2B)	
		'-' (0x2D)	
		'.' (0x2E)	
		'/' (0x2F)	
CODE128	2文字以上	(0x00 ～ 0x7F) ※1 ※2 ※3	–
CODE93	1文字以上	(0x00 ～ 0x7F) ※2 ※3	–
JAN13 (EAN13) add-on 2	12 ～ 13 + 2文字	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	–
JAN13 (EAN13) add-on 5	12 ～ 13 + 5文字	'0' ～ '9' (0x30 ～ 0x39)	–

種別	データ数	使用可能なデータ	備考
GS1 Databar Omni-directional	13文字	'0' ~ '9' (0x30 ~ 0x39)	チェックデジットは自動計算されます
GS1 Databar Truncated	13文字	'0' ~ '9' (0x30 ~ 0x39)	チェックデジットは自動計算されます
GS1 Databar Limited	13文字	'0' ~ '9' (0x30 ~ 0x39)	チェックデジットは自動計算されます
GS1 Databar Expanded ^{※5}	2文字以上	' ' ~ ' ' (0x20 ~ 0x22) ^{※3}	-
		'%' ~ '?' (0x25 ~ 0x3F)	
		'A' ~ 'Z' (0x41 ~ 0x5A)	
		'-' (0x5F)	
		'a' ~ 'z' (0x61 ~ 0x7A)	
		'{' (0x7B) ^{※4}	

※1: CODEの選択によって使用できるデータが異なります。

- CODE A: 0x00~0x5F
- CODE B: 0x20~0x7F
- CODE C: 00~99 (0x00~0x63) の2桁の数字

下記の特特殊キャラクターによりCODE、FNC、SHIFTの選択を行います。

コード	CODE A	CODE B	CODE C
{S	SHIFT	SHIFT	SHIFT
{A	-	CODE A	CODE A
{B	CODE B	-	CODE B
{C	CODE C	CODE C	-
{1	FNC1	FNC1	FNC1
{2	FNC2	FNC2	FNC2
{3	FNC3	FNC3	FNC3
{4	FNC4	FNC4	FNC4
{{	'{'	'{'	-

※2: 0x00~0x1F、0x7Fを利用する場合、『3.5.5 バーコードフォントの設定』の[16進入力(E)]を有効にすることでコード入力が可能です。

※3: 0x20は、『3.5.5 バーコードフォントの設定』の[16進入力(E)]が「有効」の場合のみ使用できます。

※4: '{'は、FNCを指定する場合にのみ利用してください。

FNC1を指定する場合、'{'、'1'(0x7B、0x31)を入力します。

※5: 有効な入力データの詳細は、「MP-A40シリーズ サーマルプリンタ 技術説明書」を参照してください。

7.4 2次元バーコードフォント

2次元バーコードフォントとは、アプリケーション側で2次元バーコードイメージを生成しなくても、このフォントを指定することで2次元バーコードを印刷できる特殊なフォントです。

2次元バーコードフォントは、2次元バーコードの種類や大きさを[印刷設定]で登録して使用します。プリンタードライバーでは5種類(IPD 2D-Barcode1～5)の設定を登録できます。登録方法は『3.5.6 2次元バーコードフォントの設定』を参照してください。

文字列のエンコードは、システムで現在有効になっているANSIコードページで行われます。

注意

- ◆ 2次元バーコード設定やデータの指定により印字幅以上の2次元バーコードになってしまう場合は、正しく印刷されません。

7.4.1 2次元バーコードフォントの種類の選択

2次元バーコードのフォント名は下記の通りです。

フォント名	フォントサイズ	文字セット
IPD 2D-Barcode1	8.5ポイント	欧文/日本語 ^{※1}
IPD 2D-Barcode2		
IPD 2D-Barcode3		
IPD 2D-Barcode4		
IPD 2D-Barcode5		

※1: 日本語以外の環境では文字セット(フォントスクリプト)を「欧文」にしてください。
日本語環境では文字セット(フォントスクリプト)を「日本語」にしてください。

7.4.2 2次元バーコードフォントの印刷

2次元バーコードフォントを印刷するには、汎用アプリケーションから印刷する、またはプログラミングによる印刷などの方法があります。

有効な入力データの詳細は、「MP-A40シリーズ サーマルプリンタ 技術説明書」を参照してください。

7.5 コントロールフォント

コントロールフォントとは、固定の文字に割り当てられたプリンターコマンドを文書内から実行する特殊なフォントです。

7.5.1 コントロールフォントの種類の選択

コントロールフォントの種類は下記の通りです。

フォント名	フォントサイズ	文字セット
IPD Control	8.5ポイント	欧文

7.5.2 コントロールフォントの使用

コントロールフォントを使用するには、汎用アプリケーションから使用する、またはプログラミングして使用するなどの方法があります。

コントロールフォントとして割り当てられた文字と動作は下記の通りです。

割当文字	動作	割当文字	動作
5	HT	v	文字の90度右回転の解除
6	LF	w	位置揃え 左
7	CR	x	位置揃え 中央
h	NVイメージ00(30,30) 印刷	y	位置揃え 右
i	NVイメージ01(30,31) 印刷	G	NVイメージ00(30,30) Normal印刷
j	NVイメージ02(30,32) 印刷	H	NVイメージ01(30,31) Normal印刷
k	NVイメージ03(30,33) 印刷	I	NVイメージ02(30,32) Normal印刷
l	NVイメージ04(30,34) 印刷	J	NVイメージ03(30,33) Normal印刷
m	倒立印字の指定	K	NVイメージ04(30,34) Normal印刷
n	倒立印字の解除	P	カット位置まで紙送り
o	白黒反転印字の指定	Q	カット位置まで紙送り
p	白黒反転印字の解除	[NVイメージ00(30,30) 4倍印刷
q	アンダーラインの指定]	NVイメージ01(30,31) 4倍印刷
r	アンダーラインの解除	^	NVイメージ02(30,32) 4倍印刷
s	強調印字の指定	_	NVイメージ03(30,33) 4倍印刷
t	強調印字の解除	`	NVイメージ04(30,34) 4倍印刷
u	文字の90度右回転の指定	-	-

・ NVイメージの括弧内のキーコードは16進数です。

注意

◆ 90度回転時には、アンダーラインは付きません。

7.6 コントロールAフォント

コントロールAフォントとは、文字に事前に割り当てられたプリンターコマンドを文書内から実行する特殊なフォントです。プリンターコマンドについては、「MP-A40シリーズ サーマルプリンタ 技術説明書」を参照してください。

コントロールAフォントは、実行するプリンターコマンドを[印刷設定]で登録して使用します。プリンタードライバでは0x20～0x7Fまでの文字に任意のプリンターコマンドを登録できます。登録方法は『3.5.7 コントロールAフォントの設定3.5.7』を参照してください。

7.6.1 コントロールAフォントの種類の選択

コントロールAフォントの種類は下記の通りです。

フォント名	フォントサイズ	フォントスクリプト
IPD ControlA	8.5ポイント	欧文

7.6.2 コントロールAフォントの使用

コントロールAフォントを使用するには、汎用アプリケーションから使用する、またはプログラミングして使用するなどの方法があります。



セイコーインスツル株式会社

プリントシステム事業部

千葉県千葉市美浜区中瀬1-8 〒261-8507

電話番号：043-211-1212（直通） ファクシミリ：043-211-8037

ホームページ：<https://www.sii-ps.com>

大阪営業所

大阪府大阪市北区豊崎3-2-1 淀川5番館 〒531-0072

電話番号：06-7711-0858（直通） ファクシミリ：06-7711-0856

◎本書の内容は、製品の改良に伴い、予告なしに変更することがあります。
